

授業科目名	総合文学演習 (4A)
科目番号	02DS107
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一
授業概要	多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	総合文学演習 (4B)
科目番号	02DS108
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	青柳 悦子, 加藤 百合, 齋藤 一, 吉原 ゆかり
授業概要	春学期に継続して、多様な素材と地域を対象に文学の総合的研究方法を発表形式で身につける。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	春学期に引き続き、研究発表を通して、最近の文学・文化理論を学びつつ、研究能力を総合的に発展させる。
授業計画	毎回、受講者の研究発表をもとにディスカッションをおこなう。 担当順やテーマは受講者との調整による。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学・文化理論, 研究技法, 発表技術

授業科目名	文学理論研究 (4A)
科目番号	02DS117
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	文学理論を基礎として、博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文学研究にとって有効な現代諸理論に習熟し、受講生各自の研究に生かす。
授業計画	各受講者に連続して数回にわたって理論的典拠となる文献、先行研究などを提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。文学理論演習 (4A) も受講することが望ましい。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学理論研究 (4B)
科目番号	02DS118
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	青柳 悦子
授業概要	春学期に継続して、文学理論を基礎としながら博士論文執筆をめざした文学研究法を精錬する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	春学期に引き続き、文学研究にとって有効な現代諸理論に習熟し、受講生各自の研究に生かす。
授業計画	各受講者に連続して数回にわたって理論的典拠となる文献、先行研究などを提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。文学理論演習 (4B) も受講することが望ましい。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代文学理論, 文学研究方法論

授業科目名	文学理論演習 (4A)
科目番号	02DS127
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 6
担当教員	青柳 悦子
授業概要	文学理論を基礎として、博士論文執筆をめざした文学研究を实践する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	受講者各自の文学研究の質を高めるために、対象テキストを厳密に読み込み、またアプローチ方法を自覚的に洗練させる。
授業計画	各受講者に連続して数回にわたって理論的典拠となる文献、先行研究などを提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。文学理論研究 (4A) も受講することが望ましい。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	精読, 分析手法, 研究プラン

授業科目名	文学理論演習 (4B)
科目番号	02DS128
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 6
担当教員	青柳 悦子
授業概要	春学期に継続して、文学理論を基礎としながら博士論文執筆をめざした文学研究を実践する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	春学期に引き続き、受講者各自の文学研究の質を高めるために、対象テキストを厳密に読み込み、またアプローチ方法を自覚的に洗練させる。
授業計画	各受講者に連続して数回にわたって理論的典拠となる文献、先行研究などを提示してもらい、全員で検討する。 また、各受講者の研究を全員で検討する。文学理論研究 (4B) も受講することが望ましい。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	精読, 分析手法, 研究手段

授業科目名	文学文化論研究 (4A)
科目番号	02DS137
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	齋藤 一
授業概要	日本語で書かれた短編小説や詩を読み、日本語文学への理解を深める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本語で書かれた文学テキストを「精読」する能力を養成する。なお、この授業は、これから修士論文を書く予定の大学院生向けの内容となる。
授業計画	日本語で書かれた短編小説を取り上げ、音読&精読しながら、テキストの理解を深める。 第 1 回イントロダクション。
成績評価方法	授業への貢献度とレポートによって総合的に判断する。
教科書	第 1 回の授業において受講予定者とディスカッションして決定するが、現在 (1 月 26 日) 現在では、石川巧・川口隆行編『戦争を読む 読む 』(ひつじ書房、2013 年) が有力候補である。
参考書	
オフィスアワー	月曜日 5 限
TF・TA	
キーワード	日本語, 文学, 短編小説, 精読

授業科目名	文学文化論演習 (4A)
科目番号	02DS147
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	齋藤 一
授業概要	英米系の文学理論を日本語の翻訳で読み、文学研究の手法を学ぶ。なお受講者は、文学理論についての基礎知識を身につけていることを前提とする。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	日本語で書かれた/翻訳された文学理論書を読む能力を養成する。なお、この授業は、これから博士論文を書こうとしている大学院生向けの内容となる。
授業計画	日本語で書かれた/翻訳された文学理論書を音読&精読しながら、文学理論への理解を深める。 第 1 回イントロダクション。
成績評価方法	授業への貢献度とレポートによって総合的に判断する。
教科書	第 1 回の授業において受講予定者とディスカッションしながら決定するが、現時点 (1 月 26 日) では、大貫・河野・川端編『文化と社会を読む 批評キーワード辞典』(研究社、2013 年) は有力候補の一つである。
参考書	
オフィスアワー	月曜日 5 限
TF・TA	
キーワード	日本語, 文学理論

授業科目名	文学交流論研究 (4B)
科目番号	02DS158
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	日本語もしくは英語による、文化理論の精読。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本語もしくは英語による、文化交流理論の精読。
授業計画	日本語もしくは英語で書かれた学術論文を読解し、自分の論文に有効に援用するための知的技術を養成する。 第 1 回受講者の中期～長期の研究計画に応じて、英語もしくは日本語で書かれた学術論文を選出する。詳しい日程については、授業初回で指示する。
成績評価方法	出席、授業への貢献、最終課題を総合的に評価する。
教科書	1. 別途指示する。
参考書	1. 植民地下朝鮮におけるハンセン病資料集成、全 8 巻、不二出版。 人民文学 (1950 年 11 月~1955 年 2 月) 全 15 巻・付録 1・別冊 1、不二出版
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文化, 交流, 理論

授業科目名	文学交流論演習 (4B)
科目番号	02DS168
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	吉原 ゆかり
授業概要	英語もしくは日本語による、文化テキストの精読。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	英語もしくは日本語による、文化交流に関するテキストの精読。
授業計画	日本語もしくは英語で制作された、文化・文学テキストを批判的に精読する訓練を行う。 第 1 回受講者の中期～長期の研究計画に即して、文化・文学テキストの選択を行う。 詳細については、初回の授業で指示する。
成績評価方法	
教科書	1. 別途指示する。
参考書	西成彦「胸騒ぎの鷗外」人文書院 細川周平編「日系ブラジル移民文学」2 巻、人文書院 加藤めぐみ「オーストラリア文学にみる日本人像」東京大学出版会 レイモンド・ウィリアムズ「共通文化にむけて—文化研究 1」みすず書房
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文化, 交流, 文学, テキスト, 精読

授業科目名	比較文学研究 (4)
科目番号	02DS174
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	加藤 百合
授業概要	明治時代の文学状況を比較文学的に捉える。初出 (当時のかた ち) テキストを読む訓練をおこなう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本近代の文学およびそれを成り立たせていた時代思潮について一次資料を読みながら考察する。
授業計画	明治時代になり、文学の担い手も、読者も、また発表される機関も変わった。西洋文化の移入、教育内容の変化、文学者の教養や読書範囲、といったことを勘案しながら、当時の発表形態で文学作品を読んでゆく。 第 1 回~第 15 回まで、順次明治 10 年代上下、明治 20 年代上下、明治 30 年代上下、明治 40 年代上下、大正時代上中下、と話を進めることも考えているが、履修者の関心の範囲を勘案する。時代と内容に応じ、随時担当を指名して演習形式も導入する。
成績評価方法	とにかく毎回出席し主体的に参加してほしい。私の話題提供に対して自らの意見、情報、を出してくれることを期待。
教科書	随時補助資料は配布する。また、読んでおいてほしい資料を指示する。
参考書	
オフィスアワー	QWP10153 at nifty.ne.jp
TF・TA	
キーワード	近代, 明治, 文学, 翻訳, 翻案

授業科目名	比較文学演習 (4)
科目番号	02DS179
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	加藤 百合
授業概要	翻訳などさまざまなかたちで西欧文化を摂取しようとした過程、またその過程において生じた誤解や変容について、演習形式で 多面的にとりあげる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	各自が近代日本の文学に生じた問題や興味深い現象を発見して調べ、発表を担当する。
授業計画	比較文学研究 (4) を履修していることを前提として行なう演習。自分の専攻研究、自らの関心にひきつけて、比較文学的テーマを見出して順次発表してゆく。 第 1 回~15 回 履修者が順次発表し、その内容について補足を行ったり討論をしたりすることで授業を進める。
成績評価方法	自分の担当のときには、必要な資料を調査し、考察を加え、適切なハンドアウトを作成する。毎回出席し、他の人の発表に積極的に参加する。
教科書	特に指定しない。各自が指定してゆく。
参考書	同上
オフィスアワー	QWP10153 at nifty.ne.jp
TF・TA	
キーワード	近代, 文学, 翻訳, 翻案, 影響, 文学伝統

授業科目名	総合文化研究 (4A)
科目番号	02DS187
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	浜名 恵美
授業概要	比較文学批評の英語文献講読・討論を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	比較文学・文化理論の基本概念と研究の方法を習得する。
授業計画	主に英語で書かれた比較文学・文化理論に関する論文を扱う。 第 1 回第 1 回 ガイダンス 第 2 回~第 15 回 テクストの輪読と討論
成績評価方法	出席、発表、討論への参加・貢献度、期末レポートなどを総合して評価する。
教科書	Rita Felski and Susan Stanford Friedman, eds., Comparison: Theories, Approaches, Uses (Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 2013), pp.1-167. 追加文献:受講生の研究課題等に配慮して、適切な文献を追加予定。
参考書	開講後、随時指示する。
オフィスアワー	Anytime by appointment. hamana.emi.ga@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	比較

授業科目名	総合文化研究 (4B)
科目番号	02DS188
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	浜名 恵美
授業概要	比較文化批評・理論の英語文献講読と討論を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	比較文化批評の英語文献講読・討論を行う。
授業計画	第 1 回第 1 回 ガイダンス 第 2 回~第 15 回 テクストの輪読と討論、学生の発表
成績評価方法	出席、発表、討論への参加・貢献度、期末レポートなどを総合して評価する。
教科書	Rita Felski and Susan Stanford Friedman, eds., Comparison: Theories, Approaches, Uses (Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 2013), pp.168-335. 追加文献:受講生の研究課題等に配慮して、適切な文献を追加予定。
参考書	開講後、随時指示する。
オフィスアワー	Anytime by appointment. hamana.emi.ga@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	比較

授業科目名	西洋古典学研究 (4A)
科目番号	02DS209
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ギリシア語散文文献講読. 今年度は昨年度の続きとして, アリストテレス『動物発生論』を読む予定. 関連文献として, ギリシア哲学関係の他の著作をもひもとく.
備考	2014 年度より 5 年おき開講.
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	後期ギリシア語論文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養する. ギリシア自然学研究.
授業計画	アリストテレス『動物発生論』を原典で継続的に講読している. 『動物発生論』第 2 巻第 1 章~. 第 1 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (1). 第 2 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (2). 第 3 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (3). 第 4 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (4). 第 5 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (5). 第 6 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (6). 第 7 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (7). 第 8 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (8). 第 9 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (9). 第 10 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (10). 第 11 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (11). 第 12 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (12). 第 13 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (13). 第 14 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (14). 第 15 回アリストテレス『動物発生論』第 2 巻 (15).
成績評価方法	授業期間中の出席・課題の達成度に拠る.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ギリシア自然学.

授業科目名	西洋古典学研究 (4B)
科目番号	02DS210
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	秋山 学
授業概要	ギリシア語散文文献講読. 前期に続き, アリストテレス『動物発生論』を読む予定. 関連文献として, ギリシア哲学関係の他の著作をもひもとく.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	後期ギリシア語論文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養する. ギリシア自然学研究. 前期の継続.
授業計画	アリストテレス『動物発生論』を原典で第 2 巻から講読している. 前期の継続 (第 3 巻). 第 1 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (1). 第 2 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (2). 第 3 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (3). 第 4 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (4). 第 5 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (5). 第 6 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (6). 第 7 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (7). 第 8 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (8). 第 9 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (9). 第 10 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (10). 第 11 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (11). 第 12 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (12). 第 13 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (13). 第 14 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (14). 第 15 回アリストテレス『動物発生論』第 3 巻 (15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ギリシア自然学.

授業科目名	西洋古典学演習 (4A)
科目番号	02DS219
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	秋山 学
授業概要	ラテン語散文文献講読の予定. 今年度は昨年度からの続きとして, アウグスティヌス『神国論』を読み進む予定. 関連して教父たちの他の著作をもひもとく.
備考	2014 年度より 5 年おき開講.
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	後期ラテン語散文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養する. ラテン教父神学研究.
授業計画	アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 21 章~. 第 1 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (1). 第 2 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (2). 第 3 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (3). 第 4 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (4). 第 5 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (5). 第 6 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (6). 第 7 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (7). 第 8 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (8). 第 9 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (9). 第 10 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (10). 第 11 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (11). 第 12 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (12). 第 13 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (13). 第 14 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (14). 第 15 回アウグスティヌス『神の国』第 1 巻 (15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ラテン教父神学.

授業科目名	西洋古典学演習 (4B)
科目番号	02DS220
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	秋山 学
授業概要	ラテン語散文文献講読の予定. 前期からの続きとして, アウグスティヌス『神国論』を読み進む予定. 関連して教父たちの他の著作をもひもとく.
備考	2014 年度より 5 年おき開講.
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	後期ラテン語散文の講読を通じて, 高度な思索力を涵養する. ラテン教父神学研究. 前期の継続.
授業計画	前期の継続 (アウグスティヌス『神の国』第 2 巻). 第 1 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (1). 第 2 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (2). 第 3 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (3). 第 4 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (4). 第 5 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (5). 第 6 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (6). 第 7 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (7). 第 8 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (8). 第 9 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (9). 第 10 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (10). 第 11 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (11). 第 12 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (12). 第 13 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (13). 第 14 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (14). 第 15 回アウグスティヌス『神の国』第 2 巻 (15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ラテン教父神学.

授業科目名	古典古代学研究 (4A)
科目番号	02DS229
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあて, 古典の読解力の涵養を目指す.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ること, 2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあてる. 下欄ではひとまず, 西洋中世思想の頂点, トマス・アキナスの著作講読計画を掲げておく.
授業計画	個人指導の時間にあてる. 第 1 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 1). 第 2 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 2). 第 3 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 3). 第 4 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 4). 第 5 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 5). 第 6 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 6). 第 7 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 7). 第 8 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 8). 第 9 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 9). 第 10 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 10). 第 11 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 11). 第 12 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 12). 第 13 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 13). 第 14 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 14). 第 15 回トマス・アキナス『神学大全』I 講読 (その 15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古典古代学とは何か.

授業科目名	古典古代学研究 (4B)
科目番号	02DS230
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあて, 古典の読解力の涵養を目指す.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ること, 2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあてる. 下欄ではひとまず, 西洋中世思想の頂点であるトマス・アキナスの著作講読計画を掲げておく (前期の継続).
授業計画	個人指導の時間にあてる. 第 1 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 1). 第 2 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 2). 第 3 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 3). 第 4 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 4). 第 5 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 5). 第 6 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 6). 第 7 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 7). 第 8 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 8). 第 9 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 9). 第 10 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 10). 第 11 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 11). 第 12 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 12). 第 13 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 13). 第 14 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 14). 第 15 回トマス・アキナス『神学大全』II-I 講読 (その 15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古典古代学とは何か.

授業科目名	古典古代学演習 (4A)
科目番号	02DS239
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じ, ゼミ形式で個人指導を行い, 古典の読解力の涵養を目指す.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあてる. 下欄には, 古典古代学の祖である慈雲飲光 (1718-1804) の著作講読計画を掲げておく.
授業計画	個人指導の時間にあてる. ゼミ形式. 第 1 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 1). 第 2 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 2). 第 3 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 3). 第 4 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 4). 第 5 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 5). 第 6 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 6). 第 7 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 7). 第 8 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 8). 第 9 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 9). 第 10 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 10). 第 11 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 11). 第 12 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 12). 第 13 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 13). 第 14 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 14). 第 15 回慈雲『普賢行願讃の示』講読 (その 15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古典古代学とはいかに展開されるのか.

授業科目名	古典古代学演習 (4B)
科目番号	02DS240
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 応談
担当教員	秋山 学
授業概要	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じ, ゼミ形式で個人指導を行い, 古典の読解力の涵養を目指す.
備考	この科目の開講曜時限は「応談」であるので, 受講希望者は事前に担当教員と連絡を取ることに, 2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古典古代学を構成する諸分野のうち仏典, 西洋古典, 聖書, 西洋中世思想について, 受講者の研究対象に応じて文献講読を行う. 個人指導の時間にあてる. 下欄には, 古典古代学の祖である慈雲歆光 (1718-1804) の著作講読計画を掲げておく.
授業計画	個人指導の時間にあてる. ゼミ形式. 第 1 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 1). 第 2 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 2). 第 3 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 3). 第 4 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 4). 第 5 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 5). 第 6 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 6). 第 7 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 7). 第 8 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 8). 第 9 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 9). 第 10 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 10). 第 11 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 11). 第 12 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 12). 第 13 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 13). 第 14 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 14). 第 15 回慈雲『法華陀羅尼諸訳互証』講読 (その 15).
成績評価方法	出席点と平常点による.
教科書	授業中にコピーして配布する.
参考書	
オフィスアワー	火: 4 限 OH (要アポ) 木: 3 限 OH (要アポ) akiyama.manabu.gf at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古典古代学とはいかに展開されうるのか.

授業科目名	映画理論研究 (4)
科目番号	02DS260
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	御園生 涼子
授業概要	主に英米圏で盛んになったメロドラマ映画理論を講読する
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	わたしたちはほんとうに「メロドラマ」という/についての物語を知っているだろうか?この一見したところ身近な、しかし定義しようとするとき捉えどころのない性質をもったジャンルを、わたしたちはどのように理解し、読解してゆけばよいのだろうか?「近代」という時代が訪れてから以後、「メロドラマ的想像力」は社会を渦巻く情念を形にする手段として人々を魅了し、突き動かしてきた。こうした「近代」を表現する文化形式として生まれたメロドラマをめぐる問いは、「近代」のメディアである映画そのものをめぐる問いでもある。この講義では、「メロドラマ」という命題をめぐって主に英語圏のフィルム・スタディーズが繰り広げてきた議論を年代順に追いながら、「メロドラマ」概念の多様性と今日におけるその役割について考察する。
授業計画	第 1 回イントロダクション:「メロドラマ的想像力」とはなにか 第 2 回ハリウッド・ファミリー・メロドラマ:映画研究におけるメロドラマの基礎概念 第 3 回メロドラマの巨匠・ダグラス・サーク 第 4 回メロドラマ前史からハリウッド・メロドラマへ 第 5 回新マルクス主義批評/精神分析批評とメロドラマ 1 第 6 回新マルクス主義批評/精神分析とメロドラマ 2 第 7 回メロドラマと女性映画 1 第 8 回メロドラマと女性映画 2 第 9 回メロドラマ史の再構築 第 10 回メロドラマ概念の再考 第 11 回メロドラマを脱中心化する 第 12 回 1930 年代日本におけるメロドラマ映画 第 13 回現代日本におけるメロドラマ映画 第 14 回試験・まとめ
成績評価方法	試験:60% 授業に対する積極的な取り組み:40%
教科書	使用しない (毎回レジュメを配布する)
参考書	随時紹介する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	メロドラマ, 映画理論, フェミニズム

授業科目名	映画理論演習 (4)
科目番号	02DS261
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	御園生 涼子
授業概要	非西洋圏のメロドラマ映画論を検討し、映画テキストを実際に分析する
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	春学期で学習したメロドラマ映画研究の基礎を踏まえて、英語圏にとどまらない多国籍的なメロドラマ映画研究の可能性を探る。授業はいくつかの非西洋圏のメロドラマ映画論を読んだ後、受講者が各自具体的なメロドラマ映画を題材として発表をする形式をとる。
授業計画	第 1 回イントロダクション:非西洋圏のメロドラマとはどのようなものか 第 2 回ミリアム・ハンセンの「ヴァナキュラー・モダニズム」概念 第 3 回アジアのメロドラマ映画 第 4 回ロシアのメロドラマ映画 第 5 回韓国のメロドラマ映画 第 6 回南米圏のメロドラマ映画 第 7 回学生発表 第 8 回学生発表 第 9 回学生発表 第 10 回学生発表 第 11 回学生発表 第 12 回学生発表 第 13 回学生発表 第 14 回まとめ
成績評価方法	レポート:60% 授業への積極的な取り組み:40%
教科書	随時指定する。
参考書	1. 随時指定する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	メロドラマ, 多文化主義, グローバリズム

授業科目名	日本文学研究 (4A)
科目番号	02DS307
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	本井 牧子
授業概要	古典籍の文献学的な研究方法について学ぶ。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	古典籍の調査方法および文献学的分析方法に習熟する。(目録作成編)
授業計画	古典籍について、書誌学の基礎知識を学んだ上で、図書館の資料を実際に調査し、その結果を分析、検討する。本年度は筑波大学附属図書館所蔵室町時代物語の目録を作成する。 第 1 回古典籍の基礎知識 (1) 第 2 回古典籍の基礎知識 (2) 第 3 回室町時代物語概説 第 4 回目録の比較検討・調査項目の検討 (1) 第 5 回目録の比較検討・調査項目の検討 (2) 第 6 回データベースによる調査 (1) 第 7 回データベースによる調査 (2) 第 8 回閲覧調査 (1) 第 9 回調査報告、検討 (1) 第 10 回閲覧調査 (2) 第 11 回調査報告・検討 (2) 第 12 回閲覧調査 (3) 第 13 回調査報告・検討 (3) 第 14 回目録草稿作成 第 15 回目録の検討・最終版完成
成績評価方法	授業への出席、実習・調査へのとりくみ:40% 報告:60%
教科書	特に指定しない。
参考書	1. 大沼晴暉『図書大概』(汲古書院、平成 24 年) 2. 堀川貴司『書誌学入門—古典籍を見る・知る・読む—』(勉誠社出版、平成 22 年) 3. 斯道文庫編『図説書誌学—古典籍を学ぶ』(勉誠出版、平成 22 年) 4. 川瀬一馬著・岡崎久司編『書誌学入門』(雄松堂出版、平成 13 年) 5. 杉浦克己『改訂版 書誌学』(放送大学教育振興会、平成 11 年) 6. 『中世王朝物語・御伽草子事典』(勉誠出版、平成 14 年) 7. 徳田和夫編『お伽草子事典』(東京堂出版、平成 14 年)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文献学, 書誌学, 室町時代物語

授業科目名	日本文学研究 (4B)
科目番号	02DS308
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	本井 牧子
授業概要	実際に古典籍の調査・分析を行い、文献学的な問題を考える。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	古典籍の調査方法および文献学的分析方法に習熟する。(解題作成編)
授業計画	古典籍を実際に調査し、その結果を分析、検討した上で、解題を作成する。本年度は筑波大学附属図書館所蔵室町時代物語を調査対象として解題を作成する。 第 1 回室町時代物語の諸問題 (1) 第 2 回室町時代物語の諸問題 (2) 第 3 回作品の選定、調査項目の設定 第 4 回閲覧調査 (1) 第 5 回作品の読解 (1) 第 6 回作品の読解 (2) 第 7 回作品の読解 (3) 第 8 回閲覧調査 (2) 第 9 回作品の読解 (4) 第 10 回作品の読解 (5) 第 11 回作品の読解 (6) 第 12 回解題の草案作成 第 13 回解題の検討 第 14 回閲覧調査 (3) 第 15 回解題最終稿作成とまとめ
成績評価方法	授業への出席、実習・調査へのとりくみ:40% 報告:60%
教科書	特に指定しない。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文献学, 書誌学, 室町時代物語

授業科目名	和漢比較文学研究 (4A)
科目番号	02DS317
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本を徹底的に読解し、日本人の『白氏文集』受容の実態を照らし出すことを目指す。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	第 1 回 講義の目的と方法 第 2 回~第 14 回 264 番詩 (前半) の注解と討議 第 15 回 「遊悟真寺詩」 (前半) に関する問題点のまとめ
成績評価方法	発表の内容と討議の参加態度とによって評価する。
教科書	1. 川瀬一馬氏編『金沢文庫本 白氏文集 一』勉誠社、1984 年
参考書	1. 平岡武夫氏・今井清氏校定『白氏文集 第一冊』京都大学人文科学研究所、1971 2. 花房英樹氏『白楽天』清水書院、1990 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本, 注解

授業科目名	和漢比較文学研究 (4B)
科目番号	02DS318
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	谷口 孝介
授業概要	『白氏文集』巻六閑適詩の注解を行う。日本所在の旧鈔本である金沢文庫本に基づき、白居易独自の閑適詩の表現を吟味する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	日本古代中世における漢籍受容の実態をできるだけ具体的にあきらかにすることを主な目的とする。同時に日中にわたる漢文文献の扱い方の習熟を期す。
授業計画	第 1 回 講義の目的と方法 第 2 回~第 14 回 264 番詩 (後半) の注解と討議 第 15 回 「遊悟真寺詩」に関する問題点のまとめ
成績評価方法	発表の内容と討議の参加態度とによって評価する。
教科書	1. 川瀬一馬氏編『金沢文庫本 白氏文集 一』勉誠社、1984 年
参考書	1. 平岡武夫氏・今井清氏校定『白氏文集 第一冊』京都大学人文科学研究所、1971 2. 花房英樹氏『白楽天』清水書院、1990 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	白居易, 閑適詩, 金沢文庫本, 旧鈔本

授業科目名	日本古代文学演習 (4A)
科目番号	02DS337
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	前時代の要素を取り入れつつ古今歌風を形成した、素性の古今集歌を逐一取りあげて注解を施す。詩的言語の注解方法に習熟するとともに『万葉集』から『古今和歌集』に到る古代和歌の表現形成を探究する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。
授業計画	第 1 回・第 2 回 講義の目的と方法第 3 回~第 6 回 古今集 143 番歌の注解と討議 第 7 回~第 10 回 古今集 144 番歌の注解と討議 第 11 回~第 14 回 古今集 181 番歌の注解と討議第 第 15 回 古今集素性四季歌の特質
成績評価方法	演習発表と演習参加態度とにより評価する。
教科書	1. とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	1. 久曾神昇氏『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年 2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編『古今集校本』笠間書院、1977 年
オフィスアワー	谷口孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 素性, 夏歌, 注解, 万葉集

授業科目名	日本古代文学演習 (4B)
科目番号	02DS338
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	谷口 孝介
授業概要	素性の古今集歌を逐一取りあげて注解を施す。とくに諸本の異同に注目することで、古今集歌表現の機微を探求する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	古代和歌の表現に習熟し、古代文学関連の文献の扱い方を学ぶことを主な目的とする。
授業計画	第 1 回・第 2 回 講義の目的と方法 第 3 回~第 6 回 古今集 241 番歌の注解と討議 第 7 回~第 10 回 古今集 244 番歌の注解と討議 第 11 回~第 14 回 古今集 273 番歌の注解と討議 第 15 回 素性歌から見た古今歌風の特質
成績評価方法	演習発表と演習参加態度とにより評価する。
教科書	1. とくに定めないが、各自『古今集』の全注本を用意しておくこと。
参考書	1. 久曾神昇氏『古今和歌集成立論』風間書房、1960、1961 年 2. 西下経一氏・滝沢貞夫氏編『古今集校本』笠間書院、1977 年
オフィスアワー	谷口 孝介 木:3 時限目 人文社会学系棟 A516 taniguchi.kosuke.gm@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	古今和歌集, 素性, 秋歌, 注解, 万葉集

授業科目名	日本中古文学研究 (4A)
科目番号	02DS347
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』をよむ。江戸のゆたかな出版文化が『源氏物語』享受をどのようにかえていったかということ、文学史の問題を意識しながら、『湖月抄』、『首書源氏物語』の本文、注釈に注目して考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	『源氏物語』をよむ。『湖月抄』に至るまでの『源氏物語』が生きてきた道すじを、諸本研究、注釈研究から考える。あわせて、問題を自分のものとするために考察を進める技術、知識を得る。
授業計画	第 1 回資料の調べ方にかんする演習。 第 2 回『源氏物語』諸本概説 (写本を中心に)。 第 3 回『源氏物語』諸本概説 (版本を中心に)。 第 4 回『源氏物語』注釈書概説 (古注)。 第 5 回『源氏物語』注釈書概説 (旧注)。 第 6 回『源氏物語』の諸本に注目した演習 (『湖月抄』青表紙本と尾州家本)。 第 7 回『源氏物語』の諸本に注目した演習 (陽明文庫蔵本本)。 第 8 回『源氏物語』の諸本に注目した演習 (飯島本)。 第 9 回『源氏物語』の諸本に注目した演習 (東山御文庫本とその紙背)。 第 10 回『源氏物語』注釈書にかんする演習 (東山御文庫本紙背)。 第 11 回『源氏物語』注釈書にかんする演習 (『河海抄』)。 第 12 回『源氏物語』注釈書にかんする演習 (『河海抄』とその後の注)。 第 13 回『源氏物語』注釈書にかんする演習 (『首書源氏物語』と『湖月抄』)。 第 14 回『源氏物語』諸本と注釈書にかんする演習。 第 15 回まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 岩波文庫『源氏物語』
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 『河海抄』

授業科目名	日本中古文文学研究 (4B)
科目番号	02DS348
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『源氏物語』注釈史を学ぶ。古注所引の歴史記述に注目して考える。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	『源氏物語』注釈所引の年代記類をとりあげ、官撰国史断絶後の歴史記述について具体的に考える。
授業計画	第 1 回 『源氏物語』注釈書概説。 第 2 回 年代記類概説。 第 3 回 『源氏物語』古注所引私撰国史にかんする概説。 第 4 回 先例としての『源氏物語』。 第 5 回 『源氏物語』と歴史記述について。 第 6 回 『源氏物語』古注所引私撰国史にかんする演習 (第一回)。 第 7 回 『源氏物語』古注所引私撰国史にかんする演習 (第二回)。 第 8 回 『源氏物語』古注所引私撰国史にかんする演習 (第三回)。 第 9 回 『本朝通鑑』所引『源氏物語』注釈書について。 第 10 回 『本朝通鑑』所引『源氏物語』注釈書にかんする演習。 第 11 回 重宝記と『源氏物語』注釈所引歴史記述のかかわり。 第 12 回 重宝記と『源氏物語』注釈にかんする演習。 第 13 回 『湖月抄』にかんする演習。 第 14 回 文学史のなかの『源氏物語』。 第 15 回 まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 岩波文庫『源氏物語』
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『源氏物語』, 私撰国史

授業科目名	日本中古文学演習 (4A)
科目番号	02DS357
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 1
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『日本書紀』講読。とくに、『古事記伝』の、『日本書紀』にたいするこだわり方に注目する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	『日本書紀』をとりあげる。八世紀の歴史記述とそのゆくえについて、年代記類等に目配りし、考察する。
授業計画	第 1 回授業のすすめ方にかんする説明。担当割振。 第 2 回八世紀の歴史記述とそのゆくえ。 第 3 回『古事記』概説。 第 4 回『古事記伝』について。 第 5 回『日本書紀』と『古事記伝』(第一回)。 第 6 回『日本書紀』と『古事記伝』(第二回)。 第 7 回『日本書紀』雄略天皇演習(第一回)。 第 8 回『日本書紀』雄略天皇演習(第二回)。 第 9 回『日本書紀』推古天皇演習(第一回)。 第 10 回『日本書紀』推古天皇演習(第二回)。 第 11 回『日本書紀』推古天皇条と『古事記』。 第 12 回『日本書紀』推古天皇条と『元興寺縁起』。 第 13 回仏教伝来記事の意味。 第 14 回『日本書紀』と『古事記伝』(第三回)。 第 15 回まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 岩波文庫『日本書紀』
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『日本書紀』, 年代記類

授業科目名	日本中古文学演習 (4B)
科目番号	02DS358
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 1
担当教員	吉森 佳奈子
授業概要	『日本書紀』講読。官撰国史が断絶した後の歴史記述について、近世まで射程をのばして考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	『日本書紀』講読。官撰国史が断絶した後の、歴史記述に目配りしながらすすめる。
授業計画	第 1 回授業のすすめ方にかんする解説。 第 2 回私撰国史概説。 第 3 回近世の歴史書にかんする概説。 第 4 回『日本書紀』演習 (第一回)。 第 5 回『日本書紀』演習 (第二回)。 第 6 回『一代要記』演習 (第一回)。 第 7 回『一代要記』演習 (第二回)。 第 8 回『一代要記』演習 (第三回)。 第 9 回『本朝通鑑』と『日本書紀』にかんする演習 (第一回)。 第 10 回『本朝通鑑』と『日本書紀』にかんする演習 (第二回)。 第 11 回『大日本史』と『日本書紀』にかんする演習 (第一回)。 第 12 回『大日本史』と『日本書紀』にかんする演習 (第二回)。 第 13 回『本朝通紀』について。 第 14 回近世の年表型年代記について。 第 15 回まとめ。
成績評価方法	演習と討議参加による。
教科書	1. 岩波文庫『日本書紀』
参考書	そのつど指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	『日本書紀』, 私撰国史, 『本朝通鑑』, 『大日本史』, 『本朝通紀』

授業科目名	日本中世文学研究 (4A)
科目番号	02DS367
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 2
担当教員	近本 謙介
授業概要	中世文学を研究する上で必要な知識を身につけ、現在の研究状況について把握する。 あわせてあらたな研究テーマについて受講生が実践的に模索する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	中世文学研究の課題を見定めるとともに、課題分析能力を高める。
授業計画	中世文学研究を行う上での課題を見定めるため概説を行い、その後受講生が定める課題内容に応じて実践的な分析を行いながら議論を経て問題処理能力を高めていく。 第 1 回中世文学研究概説 1 第 2 回中世文学研究概説 2 第 3 回中世文学研究概説 3 第 4 回研究課題分析報告 1 および議論 第 5 回研究課題分析報告 2 および議論 第 6 回研究課題分析報告 3 および議論 第 7 回研究課題分析報告 4 および議論 第 8 回研究課題分析報告 5 および議論 第 9 回研究課題分析報告 6 および議論 第 10 回研究課題分析報告 7 および議論 第 11 回研究課題分析報告 8 および議論 第 12 回研究課題分析報告 9 および議論 第 13 回研究課題分析報告 10 および議論 第 14 回諸研究課題に関する議論
成績評価方法	課題に対する取り組みの姿勢と成果、および議論への参加状況による。
教科書	特に定めない。
参考書	研究課題によって、授業中に指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中世文学・課題分析

授業科目名	日本中世文学研究 (4B)
科目番号	02DS368
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 2
担当教員	近本 謙介
授業概要	中世文学研究におけるあらたな研究テーマについて調査・分析を行い、論文にまとめるための訓練を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	中世文学研究の課題を見定め、分析を経て成果をまとめる。
授業計画	中世文学研究の状況について解説した後、受講生がそれぞれの課題を見定め、分析と議論を経て成果をまとめる。 第 1 回中世文学研究課題論 1 第 2 回中世文学研究課題論 2 第 3 回中世文学研究課題論 3 第 4 回研究分析に基づく成果報告 1 および議論 第 5 回研究分析に基づく成果報告 2 および議論 第 6 回研究分析に基づく成果報告 3 および議論 第 7 回研究分析に基づく成果報告 4 および議論 第 8 回研究分析に基づく成果報告 5 および議論 第 9 回研究分析に基づく成果報告 6 および議論 第 10 回研究分析に基づく成果報告 7 および議論 第 11 回研究分析に基づく成果報告 8 および議論 第 12 回研究分析に基づく成果報告 9 および議論 第 13 回研究分析に基づく成果報告 10 および議論 第 14 回研究成果に対する議論とまとめ
成績評価方法	研究成果報告の内容と議論への参加状況による
教科書	特に定めない。
参考書	研究内容に応じて授業中に指示する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中世文学・成果報告

授業科目名	日本中世文学演習 (4A)
科目番号	02DS377
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	近本 謙介
授業概要	中世寺院における唱導資料輪読。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 01B4653 と同一。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	中世唱導資料輪読
授業計画	中世寺院における唱導資料を輪読し、受講生が実践的に調査報告することで分析能力を高める。 第 1 回分析対象とする唱導資料に関する概説 1 第 2 回分析対象とする唱導資料に関する概説 2 第 3 回調査報告 1 および議論 第 4 回調査報告 2 および議論 第 5 回調査報告 3 および議論 第 6 回調査報告 4 および議論 第 7 回調査報告 5 および議論 第 8 回調査報告 6 および議論 第 9 回調査報告 7 および議論 第 10 回調査報告 8 および議論 第 11 回調査報告 9 および議論 第 12 回調査報告 10 および議論 第 13 回調査報告 11 および議論 第 14 回調査報告 11 および議論 第 15 回研究課題に関する議論のまとめ 1 第 16 回研究課題に関する議論のまとめ 2
成績評価方法	調査報告内容と議論への参加状況による
教科書	資料のコピーを配布する
参考書	調査内容に応じて授業中に指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中世・唱導・寺院文芸・法会

授業科目名	日本中世文学演習 (4B)
科目番号	02DS378
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	近本 謙介
授業概要	中世寺院における唱導資料を輪読するとともに、研究課題としてのテーマを探る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 01B4654 と同一。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	中世唱導資料輪読および文学史的定位
授業計画	中世寺院における唱導資料を輪読し、受講生が成果報告するとともに、文学史的定位を試みる 第 1 回分析資料の意義に関する解説 1 第 2 回分析資料の意義に関する解説 2 第 3 回成果報告 1 および議論 第 4 回成果報告 2 および議論 第 5 回成果報告 3 および議論 第 6 回成果報告 4 および議論 第 7 回成果報告 5 および議論 第 8 回成果報告 6 および議論 第 9 回成果報告 7 および議論 第 10 回成果報告 8 および議論 第 11 回成果報告 9 および議論 第 12 回成果報告 10 および議論 第 13 回成果報告 11 および議論 第 14 回資料の文学史的定位に関する議論 1 第 15 回資料の文学史的定位に関する議論 2 第 16 回議論の総括
成績評価方法	成果報告内容と議論への参加状況による
教科書	資料のコピーを配布する
参考書	成果報告内容にしたがって授業中に指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中世・唱導・寺院文芸・法会

授業科目名	日本近世文学研究 (4A)
科目番号	02DS387
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 6
担当教員	清登 典子
授業概要	近世俳諧における季語の用いられ方について、和歌における用法と比較しつつ検討し、明らかにする。今年は夏の季語を取り上げる。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	季語に見られる美意識の成立と変遷について理解を深める。
授業計画	与謝蕪村の発句に用いられている夏の季語について、それぞれの季語の持つ本意 (詩的ありかた) を和歌、俳諧の史的展開の中で明らかにした上で、蕪村の用法の時代性と独自性とを明らかにする。それぞれの季語についての担当者を決定し、発表者の発表と討議とによって授業を行う。 第 1 回授業の進め方について説明し、季語の担当について決定する。 第 2 回日本詩歌の流れについて概説し、俳諧史の中での蕪村の位置について説明する。 第 3 回各季語の担当者による発表と 出席者による討議によって授業を進める。 第 4 回 同 上 第 5 回 同 上 第 6 回 同 上 第 7 回 同 上 第 8 回 同 上 第 9 回 同 上 第 10 回 同 上 第 11 回 同 上 第 12 回 同 上 第 13 回 同 上 第 14 回 同 上 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	授業への出席状況、発表担当時の取り組み状況、発表内容などを総合して成績をつける。
教科書	1. 藤田真一・清登典子編『蕪村全句集』おうふう、2000 年
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	月: 12 時 ~ 13 時 40 分 (要予約) 人文社会学系棟 A620 kiyoto.noriko.fn@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	和歌, 勅撰集, 八代集, 俳諧, 芭蕉, 蕪村, 一茶, 季語, 日本人の美意識

授業科目名	日本近世文学研究 (4B)
科目番号	02DS388
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	清登 典子
授業概要	近世俳諧の季語の用いられ方について、芭蕉、蕪村等の場合を取り上げて比較検討しつつ明らかにする。受講者の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	江戸中期の蕪村俳諧において、季語の美意識がどのように生かされているのかを、和歌、俳諧における季語の用いられ方と比較して明らかにする。
授業計画	発表者の担当する季語についての発表と受講生全体での討議とによって授業を進める。 第 1 回季語の分担、発表の手順、資料の作成の仕方などについて説明する。 第 2 回日本の詩歌の歴史の中で、季語がどのように発達したのかについて講義する。 第 3 回発表者がおのおの担当する夏の季語について調査した結果を発表し、それについて受講生全体で討議をする。 第 4 回同 上 第 5 回同 上 第 6 回同 上 第 7 回同 上 第 8 回同 上 第 9 回同 上 第 10 回同 上 第 11 回同 上 第 12 回同 上 第 13 回同 上 第 14 回同 上 第 15 回これまでの授業のまとめを行う。
成績評価方法	
教科書	1. 藤田真一・清登典子編『蕪村全句集』おうふう、2000 年
参考書	授業の中で、適宜指示する。
オフィスアワー	月: 12 時 ~ 13 時 40 分 (要予約) 人文社会学系棟 A620 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	和歌, 俳諧, 芭蕉, 蕪村, 一茶, 季語, 本意, 美意識

授業科目名	日本近世文学演習 (4A)
科目番号	02DS397
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	芭蕉の初期俳諧作品を取り上げて検討を加え、蕉風俳諧における言葉の使い方や技法などについて明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	芭蕉の初期俳諧作品を取り上げて検討を加え、蕉風俳諧における言葉の使い方や技法などについて明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
授業計画	担当部分についての発表者の発表と、受講生全体による討議とによって授業を進める。 第 1 回発表者の分担部分について決定し、調査方法、発表資料の作成方法などについて説明する。 第 2 回日本の詩歌史における芭蕉の位置づけについて概説する。 第 3 回発表者の担当部分についての発表と、受講生全体による討議を行う。 第 4 回 同 上 第 5 回 同 上 第 6 回 同 上 第 7 回 同 上 第 8 回 同 上 第 9 回 同 上 第 10 回 同 上 第 11 回 同 上 第 12 回 同 上 第 13 回 同 上 第 14 回 同 上 第 15 回授業のまとめを行う
成績評価方法	出席状況、発表の内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	月: 12 時 ~ 13 時 40 分 (要予約) 人文社会学系棟 A620 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	芭蕉, 素堂, 和漢連句, 句合わせ, 共同制作作品

授業科目名	日本近世文学演習 (4B)
科目番号	02DS398
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	清登 典子
授業概要	芭蕉の句合わせ作品を取り上げて検討を加え、そこに見られる俳諧技法や美意識を明らかにする。受講生の発表と討議とによって授業を進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	芭蕉と素堂との共同制作による作品を取り上げ、交流の中で作品が作られていることの意味や技法、美意識などを明らかにする。
授業計画	取り上げる作品について、発表担当者を決定し、その発表と受講生全員による討議によって授業を進めていく。 第 1 回発表担当者の決定、調査の方法、発表のやり方、資料作成の仕方などについて説明する。 第 2 回俳諧史における素堂の位置づけやテキストとする作品について説明する。 第 3 回発表担当者による発表と、それに対する受講生全体の討議を行う。 第 4 回 同 上 第 5 回 同 上 第 6 回 同 上 第 7 回 同 上 第 8 回 同 上 第 9 回 同 上 第 10 回 同 上 第 11 回 同 上 第 12 回 同 上 第 13 回 同 上 第 14 回 同 上 第 15 回授業のまとめを行う。
成績評価方法	出席状況、発表内容、討議への参加状況を総合して評価する。
教科書	授業時に指示する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	月: 12 時 ~ 13 時 40 分 (要予約) 人文社会学系棟 A620 kiyoto.noriko.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	芭蕉, 素堂, 共同制作, 俳諧, 俳文, 句合わせ

授業科目名	日本近代文学研究 (4A)
科目番号	02DS407
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	新保 邦寛
授業概要	森鷗外の作品のうち、特に明治期のものを読み、それぞれの作品の研究の現況について考える。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	森鷗外の 豊熟の時代 の作品の検討を通して転形期の文学の様相を探る。
授業計画	第 1 回~第 6 回:鷗外の 豊熟の時代 の作品のうち、特に明治末期のものを取り上げ、研究史や必要な資料を確認する。 第 7 回~第 12 回:取り上げた作品を具体的に解釈してみる。 第 13 回~第 15 回:各々の作品の研究の現況と解釈の可能性について考える。
成績評価方法	発表内容と出席で評価する。
教科書	テキストは初出のものをを用いることとし、発表者が人数分用意する。
参考書	取り上げた作品に係わる文献をすべて参考書と見做す。
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	文壇, 翻訳文学, 世紀末

授業科目名	日本近代文学研究 (4B)
科目番号	02DS408
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	新保 邦寛
授業概要	森鷗外の明治期に発表された作品を読み、それぞれの作品が、同時代のいかなる文学観や創作方法を念頭に置いてかかれているかを考える。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	森鷗外の 豊熟の時代 の作品の検討を通して同時代の文学観や創作方法を探る。
授業計画	第 1 回~第 6 回:鷗外の 豊熟の時代 の作品のうち、特に明治末期のものを取り上げ、研究史や必要な資料を確認する。 第 7 回~第 12 回:取り上げた作品を具体的に解釈してみる。 第 13 回~第 15 回:各々の作品がいかなる文学観や創作方法に基づいているかを考える。
成績評価方法	発表内容と出席で評価する。
教科書	テキストは初出のものをを用いることとし、発表者が人数分用意する。
参考書	取り上げた作品に係わる文献をすべて参考書と見做す。
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	文壇, 翻訳文学, 文学論

授業科目名	日本近代文学演習 (4A)
科目番号	02DS417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	新保 邦寛
授業概要	前年度の引き続き、各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行うが、必ず作品を変えること。そして作品解釈や専攻研究分析などを通じて、論文のテーマや研究方法を明確に示す。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	各自の研究テーマを明確にしつつ、論文構想を練る。
授業計画	第 1 回~第 5 回:前年度の研究成果を踏まえつつ、各自の研究テーマを再点検し、その独自性を明確にする。 第 6 回~第 10 回:研究テーマに従って作品を選び、研究史や問題点及び必要な資料などを確認し、提示する。 第 11 回~第 15 回:論文構想に関する見通しを示し、参加者の意見を乞う。
成績評価方法	発表内容と出席で評価する。
教科書	発表者が用意して出席者に配布する。
参考書	参考書の選択も演習の一環と見做す。
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	研究テーマ, 作品論, オリジナリティー

授業科目名	日本近代文学演習 (4B)
科目番号	02DS418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	新保 邦寛
授業概要	前年度の引き続き、各自の研究計画に従って作品を選び研究発表を行うが、必ず作品を変えること。そして、具体的な論文構想を示し、参加者の意見を乞う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	各自の研究テーマを明確にしつつ、論文作成を目指す。
授業計画	第 1 回~第 5 回:各自の研究テーマに基づいて作品を選び、その研究方法や必要な資料などを示す。 第 6 回~第 10 回:選んだ作品を解釈し、参加者に批判を乞う。 第 11 回~第 15 回:具体的な論文の構想を示して、参加者の意見を乞う。
成績評価方法	発表内容と出席で評価する。
教科書	
参考書	参考書の選択も演習の一環と見做す。
オフィスアワー	木曜日 6 時限
TF・TA	
キーワード	研究テーマ, 作品論, オリジナリティー

授業科目名	イギリス文学史研究 (4A)
科目番号	02DS507
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	加藤 行夫
授業概要	エリザベス朝の悲劇作品を読む
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	エリザベス朝悲劇の成立について研究を深める
授業計画	初期の作品を講読し、構造等について議論する 第 1 回イントロダクション 第 2 回 2 回 - 15 回 作品購読
成績評価方法	平常成績
教科書	授業内で指定する
参考書	授業内で指定する
オフィスアワー	火曜日午後
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝, 悲劇

授業科目名	イギリス文学史研究 (4B)
科目番号	02DS508
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	加藤 行夫
授業概要	エリザベス朝悲劇の読解を通して、悲劇性について考察する
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	悲劇研究に関する論文を講読する
授業計画	エリザベス朝の悲劇に関する英語論文を講読し議論する 第 1 回イントロダクション 第 2 回 2 回 - 15 回 論文講読
成績評価方法	平常成績
教科書	授業内で指示する
参考書	授業内で指示する
オフィスアワー	火曜午後
TF・TA	
キーワード	悲劇

授業科目名	イギリス文学史演習 (4A)
科目番号	02DS517
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 6
担当教員	加藤 行夫
授業概要	演劇理論に関する論文を読む
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	エリザベス朝悲劇の成立について研究を深める
授業計画	エリザベス朝の初期悲劇作品を講読する 第 1 回イントロダクション 第 2 回 2 回 - 15 回 作品講読
成績評価方法	平常成績
教科書	授業内で指示する
参考書	授業内で指示する
オフィスアワー	火曜午後
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝, 悲劇

授業科目名	イギリス文学史演習 (4B)
科目番号	02DS518
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 6
担当教員	加藤 行夫
授業概要	最新の英語論文を読む
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	悲劇に関する論文を講読し議論する
授業計画	悲劇に関する英語論文を講読する 第 1 回イントロダクション 第 2 回 2 回 - 15 回 論文講読
成績評価方法	平常成績
教科書	授業内で指示する
参考書	授業内で指示する
オフィスアワー	火曜午後
TF・TA	
キーワード	悲劇

授業科目名	イギリス文学研究 (4A)
科目番号	02DS527
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの祝祭喜劇を中心に、基礎的読解と議論を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	この演習は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本演習では、この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養したい。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回 The Merchant of Venice 1 幕 1 場前半部の講読および議論 第 3 回同 1 幕 1 場後半部の講読および議論 第 4 回同 1 幕 2 場の講読および議論 第 5 回同 1 幕 3 場前半部の講読および議論 第 6 回同 1 幕 3 場後半部の講読および議論 第 7 回同 2 幕 1・2 場の講読および議論 第 8 回同 2 幕 2 場の講読および議論 第 9 回同 2 幕 3・4・5 場の講読および議論 第 10 回同 2 幕 6・7 場の講読および議論 第 11 回同 2 幕 7・8 場の講読および議論 第 12 回同 2 幕 9 場の講読および議論 第 13 回同 3 幕 1 場の講読および議論 第 14 回同 3 幕 2 場の講読および議論 第 15 回まとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で, また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	1. William Shakespeare: The Merchany of Venice(The Arden Shakespeare, Third Series, 2011)
参考書	1. C. L. Barber, Shakespeare's Festive Comedy(1959) 2. Alexander Leggatt, Shakespeare's Comedy of Love(1974) 3. James Shapiro, Shakespeare and the Jews(1996)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝演劇, シェイクスピア, 祝祭喜劇

授業科目名	イギリス文学研究 (4B)
科目番号	02DS528
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代戯曲研究。シェイクスピアの祝祭喜劇を中心に、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	この演習は、(1) シェイクスピアを中心としたエリザベス朝演劇に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。具体的には、OED に丹念に当たりながらシェイクスピア戯曲の意味を特定する作業を行う。また、エリザベス朝演劇研究には、すでに膨大な量の研究の蓄積があり、そのエッセンスはアーデン版の脚注などに反映されているが、こうした脚注を正確に読み取ることも、かなりの力量が要求される。本演習では、この 2 点を軸にシェイクスピアおよび同時代の戯曲を読み解く能力を涵養したい。
授業計画	第 1 回 The Merchant of Venice 3 幕 3・4 場の講読および議論 第 2 回同 3 幕 5 場の講読および議論 第 3 回同 4 幕 1 場の講読および議論 (1) 第 4 回同 4 幕 1 場の講読および議論 (2) 第 5 回同 4 幕 1 場の講読および議論 (3) 第 6 回同 4 幕 1・2 場の講読および議論 (4) 第 7 回同 5 幕 1 場前半部の講読および議論 第 8 回同 5 幕 1 場中盤部の講読および議論 第 9 回同 5 幕 1 場後半部の講読および議論 第 10 回 The Merchant of Venice 全体に関する議論 (1) 第 11 回 The Merchant of Venice 全体に関する議論 (2) 第 12 回 The Merchant of Venice 文献講読 (1) 第 13 回 The Merchant of Venice 文献講読 (2) 第 14 回 The Merchant of Venice 文献講読 (3) 第 15 回まとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で、また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	1. William Shakespeare: The Merchany of Venice(The Arden Shakespeare, Third Series, 2011)
参考書	1. C. L. Barber, Shakespeare's Festive Comedy(1959) 2. Alexander Leggatt, Shakespeare's Comedy of Love(1974) 3. James Shapiro, Shakespeare and the Jews(1996)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	エリザベス朝演劇, シェイクスピア, 祝祭喜劇

授業科目名	イギリス文学演習 (4A)
科目番号	02DS537
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。エドモンド・スペンサーの叙情詩を中心に、基礎的読解と議論を行う。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	この演習は,(1) エドモンド・スペンサーを中心とした初期近代詩に関する読解の基本的技能の習得,(2) 先行研究のサーヴェイカの構築,(3) 論文作成技術の習得, の 3 点を到達目標としている。
授業計画	第 1 回イントロダクション 第 2 回 The Shepheardes Calender 「1 月」の講読および議論 第 3 回 The Shepheardes Calender 「2 月」の講読および議論 第 4 回 The Shepheardes Calender 「3 月」の講読および議論 第 5 回 The Shepheardes Calender 「4 月」の講読および議論 第 6 回 The Shepheardes Calender 「5 月」の講読および議論 第 7 回 The Shepheardes Calender 「6 月」の講読および議論 第 8 回 The Shepheardes Calender 「7 月」の講読および議論 第 9 回 The Shepheardes Calender 「8 月」の講読および議論 第 10 回 The Shepheardes Calender 「9 月」の講読および議論 第 11 回 The Shepheardes Calender 「10 月」の講読および議論 第 12 回 The Shepheardes Calender 「11 月」の講読および議論 第 13 回 The Shepheardes Calender 「12 月」の講読および議論 第 14 回 The Shepheardes Calender 全体に関する議論 第 15 回まとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で, また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	未定。開講時に指示する。
参考書	その都度指示。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	初期近代詩, エドモンド・スペンサー, 叙情詩

授業科目名	イギリス文学演習 (4B)
科目番号	02DS538
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	佐野 隆弥
授業概要	初期近代英詩研究。エドモンド・スペンサーの叙情詩を中心に、分析的読解と論文作成を行う。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	この演習は、(1) エドモンド・スペンサーを中心とした初期近代詩に関する読解の基本的技能の習得、(2) 先行研究のサーヴェイ力の構築、(3) 論文作成技術の習得、の 3 点を到達目標としている。
授業計画	第 1 回 Amoretti の講読および議論 (1) 第 2 回 Amoretti の講読および議論 (2) 第 3 回 Amoretti の講読および議論 (3) 第 4 回 Amoretti の講読および議論 (4) 第 5 回 Amoretti の講読および議論 (5) 第 6 回 Amoretti の講読および議論 (6) 第 7 回 Epithalamion の講読および議論 (1) 第 8 回 Epithalamion の講読および議論 (2) 第 9 回 Epithalamion の講読および議論 (3) 第 10 回 Prothalamion の講読および議論 (1) 第 11 回 Prothalamion の講読および議論 (2) 第 12 回 Prothalamion の講読および議論 (3) 第 13 回エドモンド・スペンサー研究文献講読 (1) 第 14 回エドモンド・スペンサー研究文献講読 (2) 第 15 回まとめ
成績評価方法	(1) 授業への貢献度 (準備の度合い, 授業中の発表成績, 授業時の活動状況, 授業態度等) を 40% の割合で, また (2) 学期末レポートを 60% の割合で評価する。
教科書	未定。開講時に指示する。
参考書	その都度指示。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	初期近代詩, エドモンド・スペンサー, 叙情詩

授業科目名	アメリカ文学史研究 (4A)
科目番号	02DS607
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	宮本 陽一郎
授業概要	ネットワークとしてのアメリカ文学史 この授業では、「ポストナショナル」「ポストエスニック」の視座から、アメリカ合衆国文学史を再検討することを試みる。ポール・ギルロイを始めとする、近年のネットワーク文化論の重要な論考を講読するとともに、これに基づきハーレム・ネッサンスと「失われた世代」の文学の再検討を試みる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ネットワークとしてのアメリカ文学史 この授業では、「ポストナショナル」「ポストエスニック」の視座から、アメリカ合衆国文学史を再検討することを試みる。ポール・ギルロイを始めとする、近年のネットワーク文化論の重要な論考を講読するとともに、これに基づきハーレム・ネッサンスと「失われた世代」の文学の再検討を試みる。
授業計画	第 1 回序論:「アメリカ」と文学史 第 2 回老人とカリブの海――二つの解釈共同体 (1) 第 3 回老人とカリブの海――二つの解釈共同体 (2) 第 4 回ブラック・エンペラー――ハーレムからハイチへ 第 5 回ブラック・エンペラー――ハイチと合衆国帝国主義の地政学 第 6 回ブラック・エンペラー――あちら側にいること 第 7 回コンク共和国および南西島共和国における観光とクーデターについて――合衆国最南端 第 8 回コンク共和国および南西島共和国における観光とクーデターについて――『持つと持たぬと』 第 9 回フォークナーのハイチ――トランスナショナルな理解のために 第 10 回フォークナーのハイチ――人種史から地誌学へ 第 11 回ネットワークとしてのアールデコ 第 12 回 1925――ハーレムとパリ 第 13 回履修者による研究発表 第 14 回履修者による研究発表 第 15 回結論
成績評価方法	授業への参加態度 30% レポート 70%
教科書	教室にて指示
参考書	教室にて指示
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ポストナショナル, ポストエスニック

授業科目名	アメリカ文学史研究 (4B)
科目番号	02DS608
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	宮本 陽一郎
授業概要	1945 年 20 世紀アメリカ文学研究のキャノンは、アメリカ本国に先駆けて 1945 年のパリで醸成されたとも言える。この授業では、1945 年に焦点を合わせ、この時期に合衆国の内と外で、どのようにして「アメリカ」が構築されていったかを論じる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	1945 20 世紀アメリカ文学研究のキャノンは、アメリカ本国に先駆けて 1945 年のパリで醸成されたとも言える。この授業では、1945 年に焦点を合わせ、この時期に合衆国の内と外で、どのようにして「アメリカ」が構築されていったかを論じる。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回人民戦線時代の左翼とアメリカ文学 第 3 回ペーパーバック文学小史 第 4 回「アメリカ」を輸出する国アメリカ (1) 第 5 回「アメリカ」を輸出する国アメリカ (2) 第 6 回黒澤 Noir — 『野良犬』の戦後と「アメリカ」 第 7 回黒澤 Noir — フィルム・ノワールとしての『酔いどれ天使』 第 8 回黒澤 Noir — トランスナショナルなクロノトープ 第 9 回黒澤 Noir — 『野良犬』の戦後と「アメリカ」 第 10 回履修者による研究発表 第 11 回履修者による研究発表 第 12 回履修者による研究発表 第 13 回履修者による研究発表 第 14 回履修者による研究発表 第 15 回結論
成績評価方法	授業への参加態度 30% レポート 70%
教科書	教室にて指示教室にて指示
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	失われた世代, アメリカ小説時代

授業科目名	アメリカ文学史演習 (4A)
科目番号	02DS617
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	宮本 陽一郎
授業概要	この授業では、20 世紀アメリカ文学研究の古典的な研究を、国民文学ではなく、脱国民文学的な観点から再読し、そこから今日的な研究課題を導きだすことを試みる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	ネットワークとしてのアメリカ文学 この授業では、20 世紀アメリカ文学研究の古典的な研究を、国民文学ではなく、脱国民文学的な観点から再読し、そこから今日的な研究課題を導きだすことを試みる。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回キャロリン・カシェール「アイダ・B・ウェルズ — トランスナショナルな視座から」 第 3 回 Paul Gilroy, The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness. "The Black Atlantic as a Counterculture of Modernity, in The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness." pp. 1-19. 第 4 回 Paul Gilroy, The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness. "The Black Atlantic as a Counterculture of Modernity, in The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness." pp. 19-40. 第 5 回 W. E. B. Dubois, "The Negro Mind Reaches Out," in The New Negro, pp. 385-414. 第 6 回 James Weldon Johnson, "Harlem: The Cultural Capital," in The New Negro, pp. 301-11. 第 7 回 J. A. Rogers, "Jazz at Home"; Gwendolyn B. Bennett, "Song"; Langston Hughes, "Jazzonia"; Langston Hughes, "Nude Young Dancer" in The New Negro, pp. 316-27. 第 8 回 Arjun Appadurai, Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization, Chapter 1 第 9 回 Arjun Appadurai, Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization, Chapter 2 第 10 回 Donald Pease, "National Identities, Postmodern Artifacts, and Postnational Narrative," in National Identities and Post-Americanist Narratives. 第 11 回アール・デコをめぐる論考 (1) 第 12 回アール・デコをめぐる論考 (2) 第 13 回アール・デコをめぐる論考 (3) 第 14 回 Marta Savigliano, Tango and the Political Economy of Passion より抜粋 第 15 回 M.E.J.Newman, Networks:An Introduction より抜粋
成績評価方法	授業への参加態度 30% レポート 70%
教科書	教室にて指示
参考書	教室にて指示
オフィスアワー	

TF・TA	
キーワード	ポストナショナル, ポストエスニック

授業科目名	アメリカ文学史演習 (4B)
科目番号	02DS618
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	宮本 陽一郎
授業概要	1945 年、パリで戦時中に製作されたアメリカの犯罪映画が一気に上映され、センセーションを巻き起こし、「フィルム・ノワール」と命名される。クロード＝エドモンド・マニーを始めとする批評家たちは、合衆国のノワール映画とノワール文学を同時に受容しつつ、今日に至るアメリカ文学研究・アメリカ映画研究の礎を築くことになる。この授業では、フランスでの受容を視野に入れつつ、ノワールの文学・映画を論じる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	1945 年 20 世紀アメリカ文学研究のキャノンは、アメリカ本国に先駆けて 1945 年のパリで醸成されたとも言える。この授業では、1945 年に焦点を合わせ、この時期に合衆国の内と外で、どのようにして「アメリカ」が構築されていったかを論じる。
授業計画	第 1 回序論 第 2 回クロード・エドモンド・マニー『アメリカ小説時代』第 1 章 第 3 回 Ernest Hemingway, "The Killers." 第 4 回 Ernest Hemingway, "A Clean Well-Lighted Place." 第 5 回 Ernest Hemingway, "The Capitol of the World." 第 6 回クロード・エドモンド・マニー『アメリカ小説時代』第 2 章 第 7 回『マルタの鷹』 第 8 回『市民ケーン』 第 9 回『ビッグ・コンボ』 第 10 回クロード・エドモンド・マニー『アメリカ小説時代』第 2 章 第 11 回 Horace McCoy, They Shoot Horses, Don't They? 1 第 12 回 Horace McCoy, They Shoot Horses, Don't They? 2 第 13 回 Horace McCoy, They Shoot Horses, Don't They? 3 第 14 回履修者による研究発表 第 15 回履修者による研究発表
成績評価方法	授業への参加態度 30% レポート 70%
教科書	教室にて指示教室にて指示
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	キャノン, アメリカナイズーション

授業科目名	アメリカ文学研究 (4A)
科目番号	02DS627
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基礎文献を読む。本年度春学期は、James Burke, 『The Day the Universe Changed』および Michel Foucault, 『Order of Things』を扱う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	知識史の基礎文献を読んで、討論を行う。
授業計画	第 1 回 Burke, "Introduction" 第 2 回 "The Way We Are" 第 3 回 "In the Light of the Above" 第 4 回 "Point of View" 第 5 回 "Matter of Fact" 第 6 回 "Infinitely Reasonable" 第 7 回 "Credit Where It's Due" 第 8 回 "Fit to Rule" を応用する 第 9 回 "Making Waves" 第 10 回 "Worlds Without End" 第 11 回 Porter, "Introduction" 第 12 回 "A Blind Spot?" 第 13 回 "The Birth of an Ideology" 第 14 回 "Clearing away the Rubbish" 第 15 回 "Print Culture" Michel Foucault, 『Order of Things』は参考文献として使用する
成績評価方法	以下の 3 点で評価する。 1. 発表者: テキストをまとめたハンドアウトの作成 2. その他の受講者: テキストの 1 章を英語の 1 パラグラフでまとめる 3. 学会誌掲載可能なレベルのレポート執筆
教科書	1. James Burke, 『The Day the Universe Changed』 (コピー) 2. Michel Foucault, 『Order of Things』 3. Roy Porter, 『The Creation of the Modern World: The Untold Story of the British Enlightenment』
参考書	
オフィスアワー	メールで予約をとること
TF・TA	
キーワード	知識の枠組み, 知識史

授業科目名	アメリカ文学研究 (4B)
科目番号	02DS628
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基礎文献を読む。本年度秋学期は、Roy Porter, 『Enlightenment: Britain and the Creation of the Modern World』を扱う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	知識史の基礎文献を読んで、討論を行う。
授業計画	第 1 回 Porter, "Rationalizing Region" 第 2 回 "The Culture of Science" 第 3 回 "Anatomizing Human Nature" 第 4 回 "The Science of Politics" 第 5 回 "Secularizing" 第 6 回 "Modernizing" 第 7 回 "Happiness" 第 8 回 "From Good Sense to Sensibility" 第 9 回 "Nature" 第 10 回 "Did the Mind Have a Sex?" 第 11 回 "Education: a Panacea?" 第 12 回 "The Vulgar" 第 13 回 "The Pursuit of Wealth" 第 14 回 "Reform" 第 15 回 "Progress" 第 16 回 "The Revolutionary Era: 'Modern Philosophy'" 第 17 回 "Lasting Light?"
成績評価方法	以下の 3 点で評価する。 1. 発表者: テキストをまとめたハンドアウトの作成 2. その他の受講者: テキストの 1 章を英語の 1 パラグラフでまとめる 3. 学会誌掲載可能なレベルのレポート執筆
教科書	1. Roy Porter, 『The Creation of the Modern World: The Untold Story of the British Enlightenment』
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	知識の枠組み, 知識史

授業科目名	アメリカ文学演習 (4A)
科目番号	02DS637
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基礎文献を読んで、討論を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	知識の枠組み および 知識史 の基本文献を読んで、学生個人個人の研究テーマ といかに関連しているかを発表形式で論じる。
授業計画	知識史 の基礎文献として James Burke, 『The Day the Universe Changed』を読み、西洋の 知識 がいかに形成されてきたかを学ぶ。 第 1 回 Burke, "Introduction" に関して 第 2 回 "The Way We Are" に関して 第 3 回 "In the Light of the Above" に関して 第 4 回 "Point of View" に関して 第 5 回 "Matter of Fact" に関して 第 6 回 "Infinitely Reasonable" に関して 第 7 回 "Credit Where It's Due" に関して 第 8 回 "Fit to Rule" に関して 第 9 回 "Making Waves" に関して 第 10 回 "Worlds Without End" に関して 第 11 回 Porter, "Introduction" に関して 第 12 回 "A Blind Spot?" に関して 第 13 回 "The Birth of an Ideology" に関して 第 14 回 "Clearing away the Rubbish" に関して 第 15 回 "Print Culture" に関して Foucault は参考文献として使用する
成績評価方法	以下の 3 点で評価する 1. 発表者: テキストをまとめたハンドアウトの作成 2. その他の受講者: テキストの 1 章を英語の 1 パラグラフでまとめる 3. 学会誌掲載可能なレベルのレポート執筆
教科書	1. James Burke, 『The Day the Universe Changed』 (コピー) 2. Michel Foucault, 『Order of Things』 3. Roy Porter, 『The Creation of the Modern World: The Untold Story of the British Enlightenment』
参考書	
オフィスアワー	メールで予約をとること 木: 4 時限 人文社会学系棟 A514 washizu.hiroko.gp at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	知識の枠組み, 知識史

授業科目名	アメリカ文学演習 (4B)
科目番号	02DS638
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	鷲津 浩子
授業概要	知識史の基礎文献を読んで、討論を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	知識の枠組み および 知識史 の基礎文献を読んで、学生個人個人の研究テーマ といかに関連しているかを発表形式で論じる。
授業計画	第 1 回 Porter, "Rationalizing Region" 第 2 回 "The Culture of Science" 第 3 回 "Anatomizing Human Nature" 第 4 回 "The Science of Politics" 第 5 回 "Secularizing" 第 6 回 "Modernizing" 第 7 回 "Happiness" 第 8 回 "From Good Sense to Sensibility" 第 9 回 "Nature" 第 10 回 "Did the Mind Have a Sex?" 第 11 回 "Education: a Panacea?" 第 12 回 "The Vulgar" 第 13 回 "The Pursuit of Wealth" 第 14 回 "Reform" 第 15 回 "Progress" 第 16 回 "The Revolutionary Era: 'Modern Philosophy' " 第 17 回 "Lasting Light?"
成績評価方法	以下の 3 点で評価する。 1. 発表者: テキストをまとめたハンドアウトの作成 2. その他の受講者: テキストの 1 章を英語の 1 パラグラフでまとめる 3. 学会誌掲載可能なレベルのレポート執筆
教科書	
参考書	1. Roy Porter, "The Creation of the Modern World: The Untold Story of the British Enlightenment."
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	知識の枠組み, 知識史

授業科目名	アメリカ文学特殊研究 (4A)
科目番号	02DS647
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	コリンズ クリステン
授業概要	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the immigrant experience, the land as wilderness, and First Nations ' mythology. Some of the writers to be included in this seminar include Michael Ondaatje, Margaret Atwood and W.P. Kinsella.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the immigrant experience, the land as wilderness, and First Nations ' mythology. Some of the writers to be included in this seminar include Michael Ondaatje, Margaret Atwood and W.P. Kinsella.
授業計画	Week 1: Introduction Week 2: Canadian Literature: Writers and Themes Week 3: Overview of Theme 1: Immigrant experience Week 4: Selected Poems of Michael Ondaatje and Margaret Atwood Week 5: Student led seminar on immigrant experience in selected Canadian texts Week 6: Wrap up class on Theme 1 Week 7: Overview of Theme 2: The land as wilderness Week 8: Excerpt from Margaret Atwood ' s novel " Surfacing " Week 9: Student led seminar on land as wilderness in selected Canadian texts Week 10: Wrap up class on Theme 2 Week 11: Overview of Theme 3: First Nations ' mythology Week 12: Short stories by W.P. Kinsella Part I Week 13: Short stories by W.P. Kinsella Part II Week 14: Student led seminar on First Nations ' mythology in selected Canadian texts Week 15: Wrap up class on Theme 3

成績評価方法	Students will be assessed on their seminar presentations, a final paper, and on their attendance and participation.
教科書	To be assigned at the first class
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	アメリカ文学特殊研究 (4B)
科目番号	02DS648
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	コリンズ クリステン
授業概要	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the multicultural mosaic, English and French Canada, and small town life. Some of the writers to be included in this seminar include Yann Martel, Leonard Cohen and Alice Munro.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	In this seminar, students will become acquainted with a cross section of classic and contemporary Canadian writing. Drawing from a literary anthology selected by the students and instructor, we will discuss themes related to the Canadian national identity, such as the multicultural mosaic, English and French Canada, and small town life. Some of the writers to be included in this seminar include Yann Martel, Leonard Cohen and Alice Munro.
授業計画	Week 1: Introduction Week 2: Canadian Literature: Writers and Themes Week 3: Overview of Theme 1: Multicultural Mosaic Week 4: Excerpt from Yann Martel ' s “ Life of Pi ” Week 5: Student led seminar on the Multicultural Mosaic in selected Canadian texts Week 6: Wrap up class on Theme 1 Week 7: Overview of Theme 2: English and French Canada Week 8: Selected Poems of Leonard Cohen Week 9: Student led seminar on English and French Canada in selected Canadian texts Week 10: Wrap up class on Theme 2 Week 11: Overview of Theme 3: Small Town Life Week 12: Short stories by Alice Munro Week 13: Short stories by Stephen Leacock Week 14: Student led seminar on Small Town Life in selected Canadian texts Week 15: Wrap up class on Theme 3

成績評価方法	Students will be assessed on their seminar presentations, a final paper, and on their attendance and participation.
教科書	To be assigned at the first class
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学史研究 (4A)
科目番号	02DS707
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 4
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学史のなかで二十世紀後半以降の文学の動向を分析する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学史のなかで、近・現代に焦点を当て、社会的・文化的・思想的な観点から文学テキスト生成の問題を考える。帝国主義的な思想から脱中心的な思想への転換や、小説というジャンルの解体など、二十世紀以降の文学には思想的・形式的な転換が大きく刻印されている。そうした文学史の流れを大きくとらえ、そのうえで各受講者が扱う研究対象 (作家やテーマ) を正確に位置づけし、問題系をより精密に設定する技術を身につける。
授業計画	文学史の大きな流れをとらえ、とりわけ二十世紀以降の文学に特徴的な問題に焦点を当てて扱う。 第 1 回序論:文学史における作家と思想 (1) 第 2 回序論:文学史における作家と思想 (2) 第 3 回序論:文学史における作家と思想 (3) 第 4 回文学史における現代性とそのテーマ (1) 第 5 回文学史における現代性とそのテーマ (2) 第 6 回文学史における現代性とそのテーマ (3) 第 7 回文学と批評 (1) 第 8 回文学と批評 (2) 第 9 回文学と批評 (3) 第 10 回文学史的背景と特定の問題 (1) 第 11 回文学史的背景と特定の問題 (2) 第 12 回文学史的背景と特定の問題 (3) 第 13 回問題提起とプレゼンテーション (1) 第 14 回問題提起とプレゼンテーション (2) 第 15 回問題提起とプレゼンテーション (3) 各受講者の研究対象の思想的な背景を明確にし、同時代的な問題と付き合いながら、テーマをより正確に設定する方法を身につける。
成績評価方法	出席と授業態度などを総合的に評価する。
教科書	授業で使用するテキストについては適宜配布する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学, 思想, 言語。

授業科目名	フランス文学史研究 (4B)
科目番号	02DS708
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 4
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学史において二十世紀後半以降の文学の動向を、思想や文化の流れに沿って理解する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス文学史のなかで、とくに近・現代に焦点を当てて、社会的・思想的観点を視野に入れながら、文学作品のもつ射程について検討する。二十世紀以降の文学、とりわけ第二次世界大戦後の文学は、文学をとおして文学の意義をふたたび問い直す試みでもあった。文学思想の核をなしていた言語中心主義が揺らぎ、文学を脱構築するなかで新しい文学が模索された時代でもある。こうした観点を踏まえ、文学テキストをどう扱うかについて議論する。
授業計画	文学をとおして文学の在り方を問う行為は、新しい形式の獲得にもつながっていた。二十世紀以降、あたかも過去の遺産を捨て去るように、さまざまな試みがなされた。そうした試みを概観しながら、具体的なテキスト分析を行う。 第 1 回序論:文学史と文学 (1) 第 2 回序論:文学史と文学 (2) 第 3 回序論:文学史と文学 (3) 第 4 回言語の危機と文学 (1) 第 5 回言語の危機と文学 (2) 第 6 回言語の危機と文学 (3) 第 7 回新たな形式の模索 (1) 第 8 回新たな形式の模索 (2) 第 9 回新たな形式の模索 (3) 第 10 回批評の多様性 (1) 第 11 回批評の多様性 (2) 第 12 回批評の多様性 (3) 第 13 回方法論とその展開 (1) 第 14 回方法論とその展開 (2) 第 15 回方法論とその展開 (3) また、そうしたテキスト創造に合わせて、戦後さまざまな視点をもった批評が台頭する。研究対象に対してどのような批評が可能であり、どのような方法論を用いるべきかについて議論する。
成績評価方法	出席と授業態度を総合的に評価する。
教科書	授業で使用するテキストについては、適宜配布する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学, 思想, 言語。

授業科目名	フランス文学研究 I(4A)
科目番号	02DS717
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学のテキストの原書精読をとおして、テキストの分析や批評を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学のなかで、二十世紀以降のテキストに焦点を当てて読解作業を行う。そして、テキストから様々な要素を読み取り、それらを整理する能力を養うと同時に、テキストから導き出される問題を深め、作家の思想と照らし合わせる作業を行う。
授業計画	小説の在り方に疑問を投じた 1960 年代のヌーヴォーロマン以前の作家を扱い、テキストから表出されるさまざまな問題について議論する。扱う予定のテキストはミシェル・レリス『成熟の年齢』、ジョルジュ・バタイユ『文学と悪』など。ただし、受講者と相談のうえ、扱うテキストを変更することはあり得る。
成績評価方法	出席と授業態度を総合的に評価する。ただし、フランス語読解の授業ではなく、テキスト分析を中心に据えた授業であるため、予め配布されるテキストの予習は必ず行うこと。
教科書	授業で扱うテキストについては、適宜指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学。

授業科目名	フランス文学研究 I(4B)
科目番号	02DS718
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 3
担当教員	小川 美登里
授業概要	フランス文学のテキスト精読をととして、テキストの分析や批評を行う。論文執筆のスキルを身につける。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス文学のなかで、おもに二十世紀以降のテキストの精読をととして、テキストからさまざまな要素を抽出し、それらを検討し、分析する能力を養う。テキストを精確かつ厳密に読み解くと同時に、そこにあらわれるテーマやモチーフを作家の思想全体と結びつける技術を身につける。
授業計画	OULIO における詩のジャンルの刷新およびヌーヴォーロマンにおける小説ジャンルの解体後、つまり 20 世紀後半から 21 世紀にかけて書かれた作品を扱うとともに、具体的なテキスト分析をととしてあらわれる問題について議論する。ボヌフォワ、キニャール、エシュノーズなどのテキストを扱う予定であるが、受講者と相談のうえ決定する。
成績評価方法	出席と授業態度を総合的に評価する。ただし、この授業はテキスト分析を中心に行うため、受講者には予め配布されたテキストを熟読することが求められる。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	フランス語, フランス文学。

授業科目名	フランス文学研究 (4A)
科目番号	02DS727
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講者の研究内容に沿って、作品を熟読し考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の研究内容に沿って、関連する文学作品を熟読し、考察する。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ、文学作品を選定する。その後は徹底して読み込む。研究発表も適宜行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学研究 II(4B)
科目番号	02DS728
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	増尾 弘美
授業概要	受講者の研究内容に沿って、研究書を読み考察する。研究発表も適宜行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	受講者の研究内容に沿って、関連する研究書、参考文献を熟読し、考察する。
授業計画	開講時に受講者と話し合っ、研究書、参考文献を選定する。その後は徹底して読み込む。研究発表も適宜行う。
成績評価方法	平常点により評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス文学特殊研究 (4A)
科目番号	02DS737
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	増尾 弘美
授業概要	ブルースト研究論文を読みつつ、分析方法を学ぶ。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ブルースト研究論文を読みつつ、分析方法を学ぶ。
授業計画	ブルーストの研究論文を読み込み、原典を精査し、関連著作を参照しながら、分析方法を学ぶ。
成績評価方法	平常点により評価。
教科書	bulletin d'informations proustiennes
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ブルースト, 生成研究

授業科目名	フランス文学特殊研究 (4B)
科目番号	02DS738
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	増尾 弘美
授業概要	ブルースト研究論文を読みつつ、論文展開の方法を学ぶ。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ブルースト研究論文を読みつつ、論文展開の方法を学ぶ。
授業計画	ブルーストの研究論文を読み込み、原典を精査し、関連著作を参照しながら、論文展開の方法を学ぶ。
成績評価方法	平常点により評価。
教科書	bulletin d'informations proustiennes
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ブルースト, 生成研究

授業科目名	ドイツ文学研究 I(4A)
科目番号	02DS807
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	相澤 啓一
授業概要	19 世紀から 20 世紀前半にかけてのドイツ文学を中心として、文学と社会の相互関係をテーマに議論する。各参加者の研究分野に配慮しながらテキストを選択し、解釈を試みる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	各参加者の個別テーマから出発しながら、20 世紀前半を中心とするドイツ文学における文学と社会の問題を多方面から分析する
授業計画	19 世紀から 20 世紀前半にかけてのドイツ文学を中心として、文学と社会の相互関係をテーマに議論する。各参加者の研究分野に配慮しながらテキストを選択し、解釈を試みる。個別の研究テーマについての発表と、基本的文献の講読を組み合わせる授業を進める。
成績評価方法	授業への積極的参加と発表・レポート
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学と社会, モデルネ, トーマス・マン, カフカ

授業科目名	ドイツ文学研究 I(4B)
科目番号	02DS808
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	相澤 啓一
授業概要	19 世紀から 20 世紀前半にかけてのドイツ文学を中心として、文学と社会の相互関係をテーマに議論する。各参加者に随時レポートしてもらいながら、テキスト解釈を深める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	修士論文を始めとする具体的な論文執筆に向けて、個別の研究に役立つ共通テキストを選択し、作品解釈を行う。
授業計画	19 世紀から 20 世紀前半にかけてのドイツ文学を中心として、文学と社会の相互関係をテーマに議論する。各参加者の研究分野に配慮しながらテキストを選択し、解釈を試みる。個別の研究テーマについての発表と、基本的文献の講読を組み合わせる授業を進める。
成績評価方法	積極的な授業参加とレポートまたは論文
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文学と社会, モデルネ, カフカ, マン

授業科目名	ドイツ文学研究 II(4A)
科目番号	02DS817
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Rhetorik I: Lektueren (Kleist, Nietzsche, Benjamin, Freud, Sloterdijk)
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Rhetorik Lekt ü ren Dieses Seminar bietet eine Einf ü hrung in die Rhetorik. Ziel dieses Seminars ist, die Lesef ä higkeit der TeilnehmerInnen auszubauen und sie im Erkennen rhetorischer Mittel und Stile zu schulen, eine F ä higkeit, die im Studium der Literaturwissenschaft, besonders in Bezug auf die Interpretation, nicht zu vernachl ä ssigen ist. Dar ü ber hinaus bietet das Seminar auch eine Einf ü hrung zu den behandelten Autoren wie Kleist, Nietzsche und Benjamin.
授業計画	Nach der gemeinsamen Er ö rterung der Problematik, erfolgt eine Ü bersicht ü ber die Geschichte der Rhetorik und verschiedene rhetorische Traditionen, unter besonderer Ber ü cksichtigung der Entwicklungen in Deutschland und Frankreich. Der gr ö ß ere Teil des Seminars ist der gemeinsamen Lekt ü re solcher Autoren gewidmet, die f ü r ihre Rhetorik ber ü hmt sind: Heinrich von Kleist, Friedrich Nietzsche, Walter Benjamin. 第 1 回 Einf ü hrung in die Rhetorik (Fragestellungen und Ü berblick) 第 2 回 Geschichte der Rhetorik (griechische Antike I) 第 3 回 Geschichte der Rhetorik (griechische Antike II) 第 4 回 Rhetorische Traditionen (Deutschland) 第 5 回 Rhetorische Traditionen (Frankreich) 第 6 回 Lekt ü ren I (Heinrich von Kleist I) 第 7 回 Lekt ü ren II (Heinrich von Kleist II) 第 8 回 Lekt ü ren III (Heinrich von Kleist III) 第 9 回 Lekt ü ren IV (Friedrich Nietzsche I) 第 10 回 Lekt ü ren V (Friedrich Nietzsche II) 第 11 回 Lekt ü ren VI (Friedrich Nietzsche III) 第 12 回 Lekt ü ren VII (Walter Benjamin I) 第 13 回 Lekt ü ren VIII (Walter Benjamin II) 第 14 回 Lekt ü ren IX (Walter Benjamin III) 第 15 回 Abschlussdiskussion
成績評価方法	aktive Teilnahme am Unterricht, Referat, Hausarbeit
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	Sprechstunde Dienstags, 2. Stunde (nach Vereinbarung) (人社棟 A513) E-Mail:heselhaus.herrad.fw(a)u.tsukuba.ac.jp

TF・TA	
キーワード	Deutsche,Literatur,Rhetorik

授業科目名	ドイツ文学研究 II(4B)
科目番号	02DS818
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Rhetoric (II) and Writing: Abhandlung, Referat, Essay, Literatur
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Rhetorics and Essay writing: Dieses Seminar beschäftigt sich mit der Abfassung wissenschaftlicher Arbeiten. Es gibt einen Überblick über verschiedene historische und gegenwärtige Stile und führt ein in verschiedene rhetorische Verfahrensweisen in der modernen bis gegenwärtigen Literaturwissenschaft (besonders Deutschland, Frankreich, Amerika).
授業計画	Das Seminar bietet die Gelegenheit, die Regeln der Abfassung literaturwissenschaftlicher Arbeiten zu erlernen und die Verwendung rhetorischer Mittel zu erproben. Der Hauptteil des Seminars besteht darin, dass die TeilnehmerInnen eigene größere und kleinere Texte abfassen und rhetorisch aufbereiten. In diesem Sinne ist dieses Seminar nicht nur eine Einführung in das Abfassen wissenschaftlicher Arbeiten, sondern auch ein „Writing Workshop“. Erhebliche Eigenarbeit der TeilnehmerInnen wird erwartet. 第 1 回 Rhetorik und Essay Writing 第 2 回 Stil I (Queneau) 第 3 回 Stil II (Übungen) 第 4 回 Studentische Arbeiten I 第 5 回 Studentische Arbeiten II 第 6 回 Die Abfassung schriftlicher Arbeiten (Einführung) 第 7 回 Die Abfassung schriftlicher Arbeiten (Historische Traditionen) 第 8 回 Die Abfassung schriftlicher Arbeiten (gegenwärtige Verfahrensweisen) 第 9 回 Studentische Arbeiten III 第 10 回 Studentische Arbeiten IV 第 11 回 Abfassung Arbeiten in der Deutschen Literaturwissenschaft 第 12 回 Rhetorische Traditionen (Deutschland) 第 13 回 Rhetorische Traditionen (Frankreich) 第 14 回 Rhetorische Traditionen (Amerika) 第 15 回 Abschlussdiskussion
成績評価方法	aktive Teilnahme, Referat, Hausarbeit
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	Sprechstunde Dienstags, 2. Stunde (nach Vereinbarung) (人社棟 A513) E-Mail:heselhaus.herrad.fw(a)u.tsukuba.ac.jp

TF・TA	
キーワード	Deutsche,Literatur,Rhetorik,Essay

授業科目名	ドイツ文学演習 (4A)
科目番号	02DS827
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	相澤 啓一
授業概要	ドイツ文学研究の基本となる学術的テキストに関する質的・量的なドイツ語力を高めるため、翻訳訓練を行なう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	ドイツ文学研究の基本となる学術的テキストに関する質的・量的なドイツ語力を高めると同時に、研究発表・発信のためのドイツ語力の向上を目指す
授業計画	ドイツ文学研究にはドイツ語力の底上げが欠かせない。研究に必要な文献の翻訳作業を通じてドイツ語力の改善を図り、同時に翻訳技能そのものの向上をめざす。また、ドイツ語での研究発表や論文執筆に必要なドイツ語スキルを向上させるために、和文独訳訓練を通じたドイツ語力の向上を図る。
成績評価方法	積極的な授業参加、毎回の課題提出
教科書	毎回の授業でプリント配布
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	ドイツ語に関する総合的テキスト能力, 学術ドイツ語, 翻訳

授業科目名	ドイツ文学演習 (4B)
科目番号	02DS828
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	相澤 啓一
授業概要	ドイツ文学研究の基本となる学術的テキストに関する質的・量的なドイツ語力を高めるため、翻訳訓練を行う。独日のテキスト読解に加えて日独のテキスト生産訓練もあわせて訓練する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ文学研究に必要なドイツ語力を、翻訳を通じて養う。独日のみならず、日独方向でも訓練を重ね、ドイツ語による高度な学術的コミュニケーションが可能な状態に至ることを目指す。
授業計画	ドイツ文学研究にはドイツ語力の底上げが欠かせない。研究に必要な文献の翻訳作業を通じてドイツ語力の改善を図り、同時に翻訳技能そのものの向上をめざす。
成績評価方法	積極的参加
教科書	毎回の授業で指示
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	学術ドイツ語, 総合的テキスト能力, 翻訳

授業科目名	ドイツ文学特講 (4A)
科目番号	02DS837
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Narrative Prosa des 19. Jahrhunderts: C.F. Meyer und Adalbert Stifter
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Erz ä hler des 19. Jahrhunderts Das Seminar bietet eine Einf ü hrung in die gro ß en Erz ä hler des 19. Jahrhunderts am Beispiel von Adalbert Stifter und Conrad Ferdinand Meyer. Ziel des Seminars ist, die besonderen Problemstellungen der kleineren Prosa zwischen Romantik und Realismus zu er ö rtern und historische Traditionen und k ü nstlerische Neuerungen herauszuarbeiten. Da narratologische Fragestellungen im Mittelpunkt stehen werden, bietet das Seminar auch eine Einf ü hrung in die Erz ä hlttheorien (Genette, Stanzel, Booth).
授業計画	Das Seminar beginnt mit einem Ü berblick ü ber die Literatur des 19. Jahrhunderts und diskutiert besondere Problempunkte bez ü glich der Epochengrenzen und zuordnungen. Danach erfolgt eine Einf ü hrung in verschiedene Erz ä hlttheorien (Genette, Stanzel, Booth). Der zweite Teil des Seminars besteht aus Lekt ü ren und Interpretationen der beiden ausgew ä hltten Autoren, Adalbert Stifter und Conrad Ferdinand Meyer. 第 1 回 Einf ü hrung in das Thema 第 2 回 Historischer Ü berblick ü ber die Literatur des 19. Jahrhunderts 第 3 回 Probleme der Epochengrenzen und zuordnungen 第 4 回 Einf ü hrung und Ü berblick ü ber Erz ä hlttheorien I 第 5 回 Einf ü hrung und Ü berblick ü ber Erz ä hlttheorien II 第 6 回 Lekt ü ren: Stifter I (Auswahl aus „ Bunte Steine “) 第 7 回 Lekt ü ren: Stifter II (Interpretationsans ä tze) 第 8 回 Lekt ü ren: Stifter III (Probleme der Narratologie) 第 9 回 Lekt ü ren: Stifter IV (Regionalismus) 第 10 回 Lekt ü ren: Meyer I (ausgew ä hlte Erz ä hlungen) 第 11 回 Lekt ü ren: Meyer II (Interpretationsans ä tze) 第 12 回 Lekt ü ren: Meyer III (Probleme der Narratologie) 第 13 回 Lekt ü ren: Meyer IV (Realismus-Diskussion) 第 14 回 Abschlussdiskussion 第 15 回 Ausblick
成績評価方法	aktive Teilnahme am Unterricht, Referat und Hausarbeit, kleinere Uebungen
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	Sprechstunde Dienstags, 2. Stunde (nach Vereinbarung) (人社棟 A513) E-Mail:heselhaus.herrad.fw(a)u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	

キーワード	Deutsche,Literatur,Narratologie
-------	---------------------------------

授業科目名	ドイツ文学特講 (4B)
科目番号	02DS838
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	ヘーゼルハウス, ヘラト
授業概要	Das deutsche Drama in Aufklärung und Klassik (Lessing, Goethe, Schiller, Kleist)
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 ドイツ語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	Deutsche Dramen der Aufklärung und Klassik Das Seminar bietet eine grundlegende Einführung in die Dramenanalyse. Zugleich führt es ein in die Dramatik der Aufklärung und Klassik. Als herausragende Vertreter deutscher Dramatik des 18. und frühen 19. Jahrhunderts werden Gotthold Ephraim Lessing, Wolfgang von Goethe, Friedrich Schiller und Heinrich von Kleist behandelt.
授業計画	Zunächst bietet das Seminar eine umfassende Einführung in die Dramenanalyse. Darauf folgt ein historischer Abriss über die Entwicklung des deutschen Dramas im 18. und frühen 19. Jahrhundert und eine Einführung in Thematiken und Dramentheorien der Aufklärung und Klassik. Besondere Aufmerksamkeit wird der Sonderstellung Heinrich von Kleists zuteil werden. Im zweiten Teil werden die erarbeiteten Erkenntnisse auf exemplarische Werke der genannten Autoren im Rahmen von Interpretationen angewandt. 第 1 回 Einführung in die Problematik 第 2 回 Einführung in die Dramenanalyse I 第 3 回 Einführung in die Dramenanalyse II 第 4 回 Einführung in die Dramenanalyse III 第 5 回 Das Drama in der Aufklärung 第 6 回 Lessing als Theoretiker 第 7 回 Lessing als Dramatiker I 第 8 回 Lessing als Dramatiker II 第 9 回 Das Drama der Klassik 第 10 回 Goethe als Dramatiker I 第 11 回 Goethe als Dramatiker II 第 12 回 Schiller als Dramatiker 第 13 回 Die besondere Stellung Heinrich von Kleists 第 14 回 Kleist als Dramatiker 第 15 回 Ausblick
成績評価方法	aktive Teilnahme am Unterricht, Referat und Hausarbeit, kleinere Übungen
教科書	wird im Unterricht bekannt gegeben
参考書	
オフィスアワー	Sprechstunde Dienstags, 2. Stunde (nach Vereinbarung) (人社棟 A513) E-Mail:heselhaus.herrad.fw(a)u.tsukuba.ac.jp

TF・TA	
キーワード	Deutsche,Literatur,Aufklaerung,Klassik,Dramenanalyse

授業科目名	中国文学史研究 (4A)
科目番号	02DS907
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	唐詩を、詩話・明清の注釈を参考にしながら読む。テキストは、陳増傑『唐人律詩箋注集評』(浙江古籍出版社 2003)
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	陳増傑『唐人律詩箋注集評』(浙江古籍出版社 2003) から杜甫以前の詩人を取り上げ、中国古典詩がどのように読み継がれてきたのかを理解する。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回駱賓王 第 3 回杜審言 第 4 回王勃 第 5 回宋之問 第 6 回陳子昂 第 7 回孟浩然 1 第 8 回孟浩然 2 第 9 回孟浩然 3 第 10 回王昌齡 第 11 回王維 第 12 回王維 1 第 13 回王維 2 第 14 回王維 3 第 15 回王維 4
成績評価方法	歴代の諸注釈について、解釈の根拠を探りその妥当性を考える授業なので、丹念な出典調査、史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	陳増傑『唐人律詩箋注集評』
参考書	1. 孫學堂『明代詩學與唐詩』齊魯書社 2012 2. 金生奎『明代唐詩選本研究』合肥工業大學出版社 2007 3. 賀嚴『清代唐詩選本研究』人民出版社 2007 4. 鄭子運『明末清初詩解研究』鳳凰出版社 2010 5. 劉重喜『明末清初杜詩學研究』中華書局 2013 6. 『増訂書目答問補正』中華書局 2011
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 文学, 批評

授業科目名	中国文学史研究 (4B)
科目番号	02DS908
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	小松 建男
授業概要	杜詩を、詩話・明清の注釈を参考にしながら読む。テキストは、陳増傑『唐人律詩箋注集評』(浙江古籍出版社 2003)
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	陳増傑『唐人律詩箋注集評』(浙江古籍出版社 2003) から杜甫およびその周辺の詩人を取り上げ、中国古典詩がどのように読み継がれてきたのかを理解する。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回高適 1 第 3 回高適 2 第 4 回李白 1 第 5 回李白 2 第 6 回李白 3 第 7 回李白 4 第 8 回杜甫 1 第 9 回杜甫 2 第 10 回杜甫 3 第 11 回杜甫 4 第 12 回杜甫 5 第 13 回杜甫 6 第 14 回杜甫 7 第 15 回岑参
成績評価方法	歴代の諸注釈について、解釈の根拠を探りその妥当性を考える授業なので、丹念な出典調査、史実・事物についての的確な理解力が評価の対象となる。
教科書	陳増傑『唐人律詩箋注集評』
参考書	1. 孫學堂『明代詩學與唐詩』齊魯書社 2012 2. 金生奎『明代唐詩選本研究』合肥工業大學出版社 2007 3. 賀嚴『清代唐詩選本研究』人民出版社 2007 4. 鄭子運『明末清初詩解研究』鳳凰出版社 2010 5. 劉重喜『明末清初杜詩學研究』中華書局 2013 6. 『増訂書目答問補正』中華書局 2011
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 文学, 批評

授業科目名	中国文学史演習 (4A)
科目番号	02DS917
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	小松 建男
授業概要	先秦から六朝にかけての散文を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	中国における散文の歴史的展開をたどる (唐以前)
授業計画	第 1 回導入 第 2 回先秦の散文 1 第 3 回先秦の散文 2 第 4 回先秦の散文 3 第 5 回先秦の散文 4 第 6 回漢魏晋南北朝の散文 1 第 7 回漢魏晋南北朝の散文 2 第 8 回漢魏晋南北朝の散文 3 第 9 回漢魏晋南北朝の散文 4 第 10 回漢魏晋南北朝の散文 5 第 11 回志怪小説の文章 1 第 12 回志怪小説の文章 2 第 13 回世説新語の文章 1 第 14 回世説新語の文章 2 第 15 回まとめ
成績評価方法	参考書・訓読についてどの程度適切な知識を獲得しているかどうかで判断される。
教科書	プリントを配布する。
参考書	1. 吉川幸次郎・小川環樹『中国の散文』筑摩書房 2. 謝序華『唐宋仿古文言句法』中華書局 2011 3. 鈴木直治『中国語と漢文』光生館 4. 齋藤文俊『漢文訓読と近代日本語の形成』勉誠社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	中国, 文学, 文言文

授業科目名	中国文学史演習 (4B)
科目番号	02DS918
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	小松 建男
授業概要	唐・宋の散文を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	中国における散文の歴史的展開について考える (唐宋の文章)
授業計画	第 1 回導入 第 2 回韓愈・柳宗元以前 1 第 3 回韓愈・柳宗元以前 2 第 4 回韓愈・柳宗元以前 3 第 5 回韓愈 1 第 6 回韓愈 2 第 7 回韓愈 3 第 8 回柳宗元 1 第 9 回柳宗元 2 第 10 回欧陽脩 1 第 11 回欧陽脩 2 第 12 回蘇軾 1 第 13 回蘇軾 2 第 14 回王安石 第 15 回まとめ
成績評価方法	参考書・訓読についてどの程度適切な知識を獲得しているかどうかで判断される。
教科書	プリントを配布する。
参考書	1. 吉川幸次郎・小川環樹『中国の散文』筑摩書房 2. 謝序華『唐宋仿古文言句法』中華書局 2011 3. 鈴木直治『中国語と漢文』光生館 4. 齋藤文俊『漢文訓読と近代日本語の形成』勉誠社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学研究 (4A)
科目番号	02DS927
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「許徴君 (自序) 詢」(～敞韻) を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	可能な限り底本に忠実な訳を作成し、各注釈者の態度を確認する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回題下注 第 3 回題下諸注の比較 第 4 回像韻 第 5 回像韻諸注の比較 第 6 回賞韻 第 7 回「鈔」の検討 第 8 回賞韻諸注の比較 第 9 回往韻 第 10 回「鈔」の検討 第 11 回往韻諸注の比較 第 12 回養韻 第 13 回敞韻 第 14 回敞韻諸注の比較 第 15 回まとめ
成績評価方法	作品理解の深さに重点をおき評価する。
教科書	1. 『唐鈔文選集注彙存』上海古籍出版社
参考書	1. 『文選研究文献輯刊』国家図書館出版社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学研究 (4B)
科目番号	02DS928
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	「許徴君 (自序) 詢」(網韻) を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	作品解釈のために最適な補注について検討する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回響韻 第 3 回「鈔」の検討 第 4 回陸善経注の検討 第 5 回響韻諸注の比較 第 6 回奨韻 第 7 回「鈔」の検討 第 8 回奨韻諸注の比較 第 9 回朗韻 第 10 回陸善経注の検討 第 11 回朗韻諸注の比較 第 12 回網韻 第 13 回「鈔」の検討 第 14 回網韻諸注の比較 第 15 回まとめ
成績評価方法	作品理解の深さに重点をおき評価する。
教科書	1. 『唐鈔文選集注彙存』上海古籍出版社
参考書	1. 『中華再造善本総目提要』国家図書館出版社
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学演習 (4A)
科目番号	02DS937
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	『藝文類聚』巻 56(「世説」)を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	基本文献に対する知見を広める。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回毛詩序 第 3 回春秋説題辭 第 4 回漢書 第 5 回文章流別論 第 6 回史記 第 7 回左伝 第 8 回論語 第 9 回詩緯含神霧 第 10 回穆天子伝 第 11 回漢武帝集 第 12 回列子 第 13 回漢書 第 14 回趙書 第 15 回世説
成績評価方法	読みの正確さによる。
教科書	1. 王紹楹の校本
参考書	1. 孫啓治『古佚書輯本目録 (附考証)』中華書局 1997 年
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学演習 (4B)
科目番号	02DS938
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	稀代 麻也子
授業概要	『藝文類聚』巻 56(～斉石道慧「離合詩」)を読む。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	基本文献を正確に読み、編集について考える。
授業計画	第 1 回漢孝武皇帝元封三年作柏梁台詔 第 2 回宋孝武帝華林都亭曲水聯句効柏梁体 第 3 回梁武帝清暑殿聯句柏梁体 第 4 回梁元帝宴清言殿作柏梁体 第 5 回後漢孔融離合詩郡姓名詩曰 第 6 回梁元帝離合詩 第 7 回梁蕭巡離合詩 第 8 回陳沈炯離合詩 第 9 回晉潘岳離合詩 第 10 回宋何長瑜離合詩 第 11 回宋孝武帝離合詩 第 12 回宋謝惠連離合詩 第 13 回宋謝靈運作離合詩 第 14 回宋賀道慶離合詩 第 15 回斉石道慧離合詩
成績評価方法	疑問点を質す熱意による。
教科書	1. 王紹楹の校本
参考書	1. 洪光荣『中国歴代文学書目挙要』新世界出版社 2011 年
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学特講 (4A)
科目番号	02DS947
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	先行研究に対する批評を軸に、博士論文の方向性を考える。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	文献選択の判断力を磨き、独自の視点で纏める力をつける。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回王漁洋研究史 (日) 第 3 回聊齋志異研究史 (日) 第 4 回詩経学研究史 (日) 第 5 回王績研究史 (日) 第 6 回陶淵明研究史 (日) 第 7 回李賀研究史 (日) 第 8 回王漁洋研究史 (中・英) 第 9 回聊齋志異研究史 (中・英) 第 10 回詩経学研究史 (中・英) 第 11 回王績研究史 (中・英) 第 12 回陶淵明研究史 (中・英) 第 13 回李賀研究史 (中・英) 第 14 回詩語研究史 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、文献選択の判断が的確であり、独自の視点で纏められていれば高評価とする。他の参加者にとっては、発展性のある質疑ができれば高評価とする。
教科書	
参考書	1. 黄霖『中国小説研究史』浙江古籍出版社 2002 年 2. 趙敏俐『中国詩歌研究動態 第 11 輯』学苑出版社 2012 年
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	中国文学特講 (4B)
科目番号	02DS948
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	小松 建男, 稀代 麻也子
授業概要	博士論文全体の構成について検討を重ねる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	実現可能な最高度の成果につながるように各自の研究を構築する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 第 2 回既発表論文の位置づけ (王漁洋) 第 3 回既発表論文の位置づけ (聊斎志異) 第 4 回既発表論文の位置づけ (朱子の詩経学) 第 5 回既発表論文の位置づけ (王績) 第 6 回既発表論文の位置づけ (陶淵明) 第 7 回既発表論文の位置づけ (李賀) 第 8 回全体の構成 (王漁洋研究) 第 9 回全体の構成 (聊斎志異研究) 第 10 回全体の構成 (朱子の詩経学研究) 第 11 回全体の構成 (陶淵明詩と唐代の詩) 第 12 回全体の構成 (詩語と陶淵明) 第 13 回全体の構成 (李賀の造語と詩語) 第 14 回完成後の展望 第 15 回まとめ
成績評価方法	発表者にとっては、実現可能な最高度の研究成果につながるように自分の研究を構築していく姿勢が顕著であれば高評価とする。他の参加者にとっては、お互いを高め合うような質疑ができれば高評価とする。
教科書	
参考書	1. 李慶『日本漢学史』
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	一般言語学研究 (4A)
科目番号	02DT107
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 随時
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行うことにより、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づける。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	指導教員による研究指導を定期的に受ける。 専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行い、自分の研究テーマを一般言語学的視座に位置づける。
授業計画	
成績評価方法	研究発表によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 金 4 限 (その他の時間帯はメールにて要予約) 人文社会学系棟 A506 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人 文 社 会 学 系 棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学研究 (4B)
科目番号	02DT108
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	池田 潤, 臼山 利信, 金 仁和, 池田 晋
授業概要	指導教員による研究指導をふまえ、専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行うことにより、自分の研究テーマをさらに掘り下げる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	指導教員による研究指導を定期的に受ける。 専門の異なる複数の担当教員の前で研究発表を行い、自分の研究テーマをさらに掘り下げる。
授業計画	
成績評価方法	口頭発表によって評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	池田 潤 金 4 限 (その他の時間帯はメールにて要予約) 人文社会学系棟 A506 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp 臼山 利信 火:11:30 ~ 12:10 水:11:30 ~ 12:10 木:11:30 ~ 12:10 人 文 社 会 学 系 棟 B713 usuyama.toshinobu.gf at u.tsukuba.ac.jp http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ippan/members/staffs/Usuyama 金 仁和 kim.inhwa.gp at u.tsukuba.ac.jp 池田 晋 事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	研究発表, 複数指導

授業科目名	一般言語学演習 (4A)
科目番号	02DT117
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	池田 潤
授業概要	一般言語学に関する論文を演習形式で講読する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	教科書から言語に関する章を選んで演習形式で講読する。 並行して、関連する脳波実験を実施する。
授業計画	第 1 回導入 第 2 回第 5 章 (The N170: Understanding the Time Course of Face Perception in the Human Brain) の講読 (1) 第 3 回第 5 章 (The N170: Understanding the Time Course of Face Perception in the Human Brain) の講読 (2) 第 4 回第 5 章 (The N170: Understanding the Time Course of Face Perception in the Human Brain) の講読 (3) 第 5 回第 5 章 (The N170: Understanding the Time Course of Face Perception in the Human Brain) の講読 (4) 第 6 回第 5 章 (The N170: Understanding the Time Course of Face Perception in the Human Brain) の講読 (5) 第 7 回 N170 に関連した脳波実験 (1) 第 8 回 N170 に関連した脳波実験 (2) 第 9 回 N170 に関連した脳波実験 (3) 第 10 回 N170 関連論文の購読 (1) 第 11 回 N170 関連論文の購読 (2) 第 12 回 N170 関連論文の購読 (3) 第 13 回 N170 に関連した脳波実験 (4) 第 14 回 N170 に関連した脳波実験 (5) 第 15 回 N170 に関連した脳波実験 (6)
成績評価方法	・ 授業での発表および討論 (50%) ・ 最終レポート論 (50%)
教科書	
参考書	1. Steven J. Luck and Emily S. Kappenman (eds.), The Oxford handbook of event-related potential components, Oxford : Oxford University Press, 2012
オフィスアワー	金 4 限 (その他の時間帯はメールにて要予約) 人文社会学系棟 A506 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	ERP, 事象関連電位, 脳波実験

授業科目名	一般言語学演習 (4B)
科目番号	02DT118
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	池田 潤
授業概要	神経言語学に関する論文を演習形式で講読した上で、それに関連した脳波実験を実施する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	・脳波実験に関する基礎知識を身に付ける。 ・脳波解析の基礎的な技術を身に付ける。
授業計画	第 1 回顔合わせと導入 受講者の関心に応じた脳波実験に関する論文を選ぶ。 第 2 回受講者の関心に応じた脳波実験に関する論文を読む (1) 第 3 回受講者の関心に応じた脳波実験に関する論文を読む (2) 第 4 回読んだ論文を参考に予備実験のパラダイムを立てる。 第 5 回予備実験の準備 (刺激の用意、被験者の手配など) 第 6 回予備実験 第 7 回予備実験の結果を再加算し、分析する 第 8 回予備実験の解析結果を踏まえて、本実験のパラダイムを検討する。 第 9 回本実験の準備 (刺激の修正・追加、被験者の手配など) 第 10 回本実験 第 11 回本実験の結果を再加算し、分析する。 第 12 回本実験の解析結果を分析・考察する (1) 第 13 回本実験の解析結果を分析・考察する (2) 第 14 回分析と考察のプレゼンテーション 第 15 回反省会 上記は標準的な日程であり、さまざまな要因によって変更される場合がある。
成績評価方法	・授業への積極的な参加 (50%) ・最終レポート (50%)
教科書	
参考書	1. 授業の中で指定する。
オフィスアワー	金 4 限 (その他の時間帯はメールにて要予約) 人文社会学系棟 A506 ikeda.jun.fm at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	脳波,ERP, 言語

授業科目名	一般言語学特講 A (4A)
科目番号	02DT127
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	臼山 利信
授業概要	ロシア語圏諸国の言語状況・言語政策について、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	到達目標:現代ロシア語を巡る言語学的諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。 テーマ:主にロシア語の格形式と機能の関係を考察する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業内容を心がけたい。 第 1 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(1) 第 2 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(2) 第 3 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(3) 第 4 回ロシア語のしくみ (名詞述語)(4) 第 5 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(5) 第 6 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(6) 第 7 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(7) 第 8 回ロシア語のしくみ (形容詞述語)(8) 第 9 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(1) 第 10 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(2) 第 11 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(3) 第 12 回ロシア語の形式 (名詞の文法性と形式)(4) 第 13 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(1) 第 14 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(2) 第 15 回ロシア語の意味 (動詞のアスペクト)(3)
成績評価方法	平常点とレポートにより評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	月・水:11:30～12:10 金:13:00～15:00
TF・TA	
キーワード	現代ロシア語, 言語形式, 言語機能, 格, 述語, 文法性

授業科目名	一般言語学特講 A (4B)
科目番号	02DT128
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	臼山 利信
授業概要	ロシア語圏諸国の言語状況・言語政策について、国内外の優れた研究成果に基づいて検討・考察する。内容は前年度と異なる。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	到達目標:言語政策を巡る諸問題に関する研究に取り組むための多様な視点を整理・把握する。 テーマ:主に多民族多言語国家における公用語と民族語の関係を考察する。
授業計画	履修学生の問題意識に配慮した授業を心がけたい。 第 1 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (1) 第 2 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (2) 第 3 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (3) 第 4 回旧ソ連における消滅しつつある諸言語の問題 (4) 第 5 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (1) 第 6 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (2) 第 7 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (3) 第 8 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (4) 第 9 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (5) 第 10 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (6) 第 11 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (7) 第 12 回ロシア語圏諸国の言語状況と言語政策 (8) 第 13 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (1) 第 14 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (2) 第 15 回ロシア語圏諸国以外の言語状況と言語政策 (3)
成績評価方法	平常点とレポートにより評価する。
教科書	授業の際に教材として文献の複写などを配布する。
参考書	適宜指示する。
オフィスアワー	月・水:11:30～12:10 金:13:00～15:00
TF・TA	
キーワード	言語状況, 言語政策, ロシア語圏諸国, 国家語, ロシア語, 言語法

授業科目名	一般言語学特講 B (4A)
科目番号	02DT137
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	金 仁和
授業概要	韓国語における音韻、形態、語彙表現、統語の特徴を考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	現代韓国語の全般的な体系を理解し、日本語との対照を試みる。
授業計画	1. 音韻・形態構造、語彙、表現について 2. 統語、文章・論理構造、談話理解、言語コミュニケーションについて 3. 各自のテーマで、構想→中間→最終発表→レポート
成績評価方法	出席、発表、レポート
教科書	配布資料
参考書	配布資料に別記
オフィスアワー	木 3(要アポ)
TF・TA	無
キーワード	韓国語, 音韻, 文法, 表現

授業科目名	一般言語学特講 B (4B)
科目番号	02DT138
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	金 仁和
授業概要	思考観点が反映された表現様相を、韓国語を対象とし、調査する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	言語運用における文化や思考方式と、時制・指示・授受・慣用表現・あいさつことばなどの表現との関連性を探る。
授業計画	1. 語彙コーパスの特徴から 擬声語・擬態語 色彩語 共感覚語:感覚の共有 (例 > 視覚と聴覚)、感情の共有 (例 > 否定・中立・肯定) 外来語の受容様相 略語の種類 新造語 など 2. 語彙運用から 過程中心/結果中心 静的描写/動的働きかけ 間接話法/直接話法 話者中心/相手中心 相対敬語/絶対敬語 など 3. 慣用面から 慣用句 ことわざ など
成績評価方法	出席、発表、レポート
教科書	配布資料
参考書	配布資料に別記
オフィスアワー	木 3(要アポ)
TF・TA	無
キーワード	思考方式, 観点, 言語運用

授業科目名	中国語文法研究 (4A)
科目番号	02DT157
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	伊原 大策
授業概要	歴史語法研究に関する基礎力を身につけ、自らの力で問題を見だし、解決に向けてアプローチする方法を学ぶ。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	近世漢語に関する文献を読み、基本的なツールの使い方を身につける。
授業計画	近世漢語に関する文献を読み、その研究動向を学ぶ。 第 1 回近世漢語に関する文学史的知識を学ぶ。 第 2 回近世漢語に関する基礎資料の扱いについて学ぶ。 第 3 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 4 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 5 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 6 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 7 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 8 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 9 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 10 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 11 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 12 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 13 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 14 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 15 回近世漢語資料を演習形式で読む。
成績評価方法	授業時における通常点およびレポートによる。
教科書	授業の際に指示する。
参考書	授業の際に指示する。
オフィスアワー	月:17:00～18:00（外セ教官室） 火:12:30～13:30（外セ教官室） 水:17:00～18:00（外セ教官室） 外語語・学術情報メディアセンター 4F 教員控室 / 外語語・学術情報メディアセンター 4F 教員控室
TF・TA	
キーワード	近世漢語, 歴史語法研究

授業科目名	中国語文法研究 (4B)
科目番号	02DT158
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	伊原 大策
授業概要	歴史語法研究に関する基礎力を身につけ、自らの力で問題を見いだし、解決に向けてアプローチする方法を学ぶ。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	近世漢語に関する文献を読み、その研究動向と成果を学ぶ。
授業計画	近世漢語に関する文献を読み、その研究動向と成果を学ぶ。受講に当たっては中国古典学の基礎知識が予め必要である。 第 1 回近世漢語資料を演習形式で読む。 第 2 回近世漢語に関する先行研究を読む。 第 3 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 4 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 5 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 6 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 7 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 8 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 9 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 10 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 11 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 12 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 13 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 14 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。 第 15 回近世漢語に関する資料を読み、研究成果を学ぶ。
成績評価方法	授業時における通常点およびレポートによる。
教科書	授業の際に指示する。
参考書	授業の際に指示する。
オフィスアワー	月:17:00～18:00（外セ教室） 火:12:30～13:30（外セ教室） 水:17:00～18:00（外セ教室） 外語語・学術情報メディアセンター 4F 教員控室 / 外語語・学術情報メディアセンター 4F 教員控室
TF・TA	
キーワード	近世漢語, 歴史語法研究

授業科目名	中国語学演習 (4A)
科目番号	02DT177
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語の名詞修飾節をテーマとして、関連する文献を読み、最新の研究動向に対する理解を深めたうえで、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	名詞修飾節について新たな問題を発掘し分析する力を身に付けると同時に、名詞修飾節に関する諸々の現象と自らの研究テーマのつながり・関連性を見出す力を養うことを目標とする。
授業計画	劉丹青『名詞性短語的類型学研究』を読む。1 章につき 2 回~3 回の時間をかけてじっくりと精読し、その内容について全員で議論をおこなう。 第 1 回イントロダクション 第 2 回第 5 章を読む。 第 3 回引き続き第 5 章を読む。 第 4 回第 6 章を読む。 第 5 回引き続き第 6 章を読む。 第 6 回第 7 章を読む。 第 7 回引き続き第 7 章を読む。 第 8 回第 8 章を読む。 第 9 回引き続き第 8 章を読む。 第 10 回第 9 章を読む。 第 11 回引き続き第 9 章を読む。 第 12 回第 10 章を読む。 第 13 回引き続き第 10 章を読む。 第 14 回第 12 章を読む。 第 15 回引き続き第 12 章を読む。
成績評価方法	出席、討論への参加度、レポートにより総合的に評価する。
教科書	1. 劉丹青『名詞性短語的類型学研究』、商務印書館 テキストの入手方法については、授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	名詞修飾節, 関係節マーカー, 制限, 非制限

授業科目名	中国語学演習 (4B)
科目番号	02DT178
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	池田 晋
授業概要	中国語のモダリティをテーマとして、関連する文献を読み、最新の研究動向に対する理解を深めたいうで、問題点について受講者全員で議論をおこなう。
備考	2014 年度より 3 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	中国語のモダリティについて新たな問題を発掘し分析する力を身に付けると同時に、モダリティにかかわる諸々の現象と自らの研究テーマのつながり・関連性を見出す力を養うことを目標とする。
授業計画	彭利貞『現代漢語情態研究』を読む。1 章につき 3 回~4 回の時間をかけてじっくりと読み、内容について全員で議論をおこなう。 第 1 回第 1 章を読む。 第 2 回引き続き第 1 章を読む。 第 3 回引き続き第 1 章を読む。 第 4 回第 2 章を読む。 第 5 回引き続き第 2 章を読む。 第 6 回引き続き第 2 章を読む。 第 7 回第 3 章を読む。 第 8 回引き続き第 3 章を読む。 第 9 回引き続き第 3 章を読む。 第 10 回第 4 章を読む。 第 11 回引き続き第 4 章を読む。 第 12 回引き続き第 4 章を読む。 第 13 回第 5 章を読む。 第 14 回引き続き第 5 章を読む。 第 15 回引き続き第 5 章を読む。
成績評価方法	出席、討論への参加度、レポートにより総合的に評価する。
教科書	1. 彭利貞『現代漢語情態研究』、中国社会科学出版社 テキストの入手方法については、授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	事前予約により随時 人文社会学系棟 B511
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	応用言語学基礎論 A
科目番号	02DT201
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 随時
担当教員	杉本 武, 砂川 有里子, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 石田 プリシラ アン, 一二三 朋子, 松崎 寛, 宮本 エジソン 正, 澤田 浩子
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、講義を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	1 学期の水曜 5・6 限に応用言語学基礎論の授業を行う。
成績評価方法	授業への取り組み状況から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	杉本武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B611 sugimoto.takeshi.ge@u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 砂川 有里子 月:面会時間についてはメールでご相談下さい。 火:面会時間についてはメールでご相談下さい。 水:面会時間についてはメールでご相談下さい。 木:面会時間についてはメールでご相談下さい。 金:面会時間についてはメールでご相談下さい。 人 文 社 会 学 系 棟 B612 QWU00504 at nifty.com http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ooyoo/faculty/sunakawa.html 竹沢 幸一 月 4 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。基本的に金曜 3 限時をオフィスアワーとしていますが、可能であれば、その他の曜日、時間帯でも受け付けます。 人文社会学系棟 A522 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 石田 プリシラ アン 火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A618 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp 一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 松 崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/ 宮本 エジソン 正 澤 田 浩 子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/

TF・TA	
キーワード	応用言語学, 研究方法

授業科目名	応用言語学基礎論 B
科目番号	02DT202
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 随時
担当教員	杉本 武, 砂川 有里子, 竹沢 幸一, 沼田 善子, 石田 プリシラ アン, 一二三 朋子, 松崎 寛, 宮本 エジソン 正, 澤田 浩子
授業概要	応用言語学において基盤となるものの見方や考え方などを、議論を通して深めていく。
備考	
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	学術的な研究能力を高めるとともに、アカデミックキャリア形成のための基本的な情報を提供する。
授業計画	毎月開催される応用言語学月例会に参加する。
成績評価方法	月例会への取り組みの状況と出席率から総合して評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	杉本武 メールによるアポイントメント 人文社会学系棟 B611 sugimoto.takeshi.ge@u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/ 砂川 有里子 月:面会時間についてはメールでご相談下さい。 火:面会時間についてはメールでご相談下さい。 水:面会時間についてはメールでご相談下さい。 木:面会時間についてはメールでご相談下さい。 金:面会時間についてはメールでご相談下さい。 人 文 社 会 学 系 棟 B612 QWU00504 at nifty.com http://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~ooyoo/faculty/sunakawa.html 竹沢 幸一 月 4 限またはアポイントメント takezawa.koichi.gn at u.tsukuba.ac.jp 沼田 善子 金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。基本的に金曜 3 限時をオフィスアワーとしていますが、可能であれば、その他の曜日、時間帯でも受け付けます。 人文社会学系棟 A522 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp 石田 プリシラ アン 火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A618 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp 一二三 朋子 hifumi.tomoko.gf at u.tsukuba.ac.jp 松 崎 寛 matsuzaki.hiroshi.fp at un.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~matsuzaki.hiroshi.fp/ 宮本 エジソン 正 澤 田 浩 子 sawada.hiroko.gb at u.tsukuba.ac.jp https://www.lingua.tsukuba.ac.jp/~sawada/

TF・TA	
キーワード	応用言語学基礎論, 研究方法

授業科目名	応用言語学研究 (4A)
科目番号	02DT209
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	宮本 エジソン 正
授業概要	Students will discuss recent developments in psycholinguistics and propose new experiments to expand currently available results.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	Students will discuss recent developments in psycholinguistics and propose new experiments to expand currently available results.
授業計画	Days 1 - 8: read and discuss recent papers in language comprehension Days 9 - 15: design and prepare a new experiment
成績評価方法	Evaluation will be based on participation during classes and the experimental project.
教科書	Papers will be assigned during the semester.
参考書	
オフィスアワー	Make appointment by email. miyamoto@alum.mit.edu
TF・TA	
キーワード	psycholinguistics,experiment

授業科目名	応用言語学研究 (4B)
科目番号	02DT210
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 集中
担当教員	宮本 エジソン 正
授業概要	Students will collect data for the psycholinguistics experiment prepared in the first semester. They will collect data, analyze it and redesign the experiment if necessary.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	Students will collect data for the psycholinguistics experiment prepared in the first semester. They will collect data, analyze it and redesign the experiment if necessary.
授業計画	Day 1: initial preparations Days 2 - 6: collect data Days 7 - 10: analyze the data Days 11 - 14: discuss the results, redesign the experiment if necessary Day 15: consider future experiments
成績評価方法	Evaluation will be based on participation during classes and the experimental project.
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	psycholinguistics,experiment

授業科目名	応用言語学演習 (4A)
科目番号	02DT219
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	砂川 有里子
授業概要	日本語母語話者の談話理解と談話産出をつかさどる文法的な要因について, 基本的な文献を読みながら考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	談話分析に関する基礎文献を講読し、理論と研究方法について理解する。
授業計画	
成績評価方法	出席率、課題、授業での活動
教科書	Michael Tomasello (ed.) 1998. The New Psychology of Language: Cognitive and Functional Approaches to Language Structure Michael Tomasello (ed.) 2003. The New Psychology of Language: Cognitive and Functional Approaches to Language Structure Volume 2 大堀壽夫他訳/マイケル・トマセロ編 (2011) 『認知・機能言語学:言語構造への 10 のアプローチ』研究社
参考書	
オフィスアワー	木 4
TF・TA	
キーワード	文法, 談話, 機能, 相互行為, 認知

授業科目名	応用言語学演習 (4B)
科目番号	02DT220
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	砂川 有里子
授業概要	日本語母語話者や日本語学習者の会話データを収集し、分析する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	各自が研究テーマを決めて、日本語の書き言葉・話し言葉データの分析を行う。
授業計画	
成績評価方法	出席率、課題、期末レポート (授業で行った研究テーマについての論文)
教科書	特になし
参考書	
オフィスアワー	木 4
TF・TA	
キーワード	談話, 文法, 書き言葉, 話し言葉

授業科目名	応用言語学論文演習 (4A)
科目番号	02DT229
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 2
担当教員	石田 プリシラ アン
授業概要	This is a seminar on lexical semantics. Topics for readings and discussion will include theoretical perspectives on word meaning, polysemy and other semantic relations, the types of meanings associated with different word classes, and the boundaries of lexical semantics.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。 日本語と英語使用。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	The principal aim of this course is for students to gain an understanding of major traditions and central issues in lexical semantics, as well as to develop their ability to think critically about these issues. A secondary aim is for students to improve their ability to discuss linguistics research, give oral presentations, and write papers in English. This course is strongly recommended as a prerequisite to 応用言語学論文演習 (4B).
授業計画	Class format will include oral presentations and discussion of course-related readings. Weeks 1-10 will focus on readings from the course text (see below). For Weeks 11-15, students will be asked to select and present readings (book chapters or articles, in English or Japanese) relevant to the content and aims of this course. Note: As a general rule, presentation/discussion of English readings will be conducted in English, and presentation/discussion of Japanese readings will be conducted in Japanese. 第 1 回 Course introduction/Presentation schedule for Weeks 2-5/ Reading assignment from course text (see below) 第 2 回 Oral presentation and discussion 第 3 回 Oral presentation and discussion 第 4 回 Oral presentation and discussion/ Presentation schedule for Weeks 6-10 第 5 回 Oral presentation and discussion 第 6 回 Oral presentation and discussion 第 7 回 Oral presentation and discussion 第 8 回 Oral presentation and discussion 第 9 回 Oral presentation and discussion/ Presentation schedule for Weeks 11-15 第 10 回 Oral presentation and discussion 第 11 回 Oral presentation and discussion/ Final paper guidelines 第 12 回 Oral presentation and discussion 第 13 回 Oral presentation and discussion 第 14 回 Oral presentation and discussion

	第 15 回 Oral presentation and discussion/ Course evaluation 1) Readings must be distributed to all participants no later than one week in advance. 2) The weekly schedule above is tentative and subject to change, depending on the number of participants.
成績評価方法	Students will be evaluated on the basis of class participation (30%), oral presentations (30%), and a final paper (40%).
教科書	1. Geeraerts, Dirk. 2010. Theories of Lexical Semantics. Oxford University Press. Keywords: lexical semantics, structuralist semantics, generative semantics, neo-structuralist semantics, cognitive semantics
参考書	1. Murphy, M. Lynne. 2010. Lexical Meaning. Cambridge University Press. 2. Gibaldi, Joseph. MLA Handbook for Writers of Research Papers (7th Edition). 2009. The Modern Language Association of America. 3. Matthews, P.H. 2007. Oxford Concise Dictionary of Linguistics (2nd Edition). Oxford University Press.
オフィスアワー	火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	応用言語学論文演習 (4B)
科目番号	02DT230
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 2
担当教員	石田 プリシラ アン
授業概要	This seminar will discuss methodologies for researching and analyzing vocabulary, with particular emphasis on the analysis of multi-word units. Students will be required to conduct an independent research project.
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 英語で授業。 参加条件として、「応用言語学論文演習 (4A)」を受講していることが望ましい。日本語と英語使用。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	The principal aim of this course is for students to gain a working knowledge of some of the methodologies used for lexical analysis. Particular emphasis will be given to the research and analysis of multi-word units (idioms, collocations, etc.). A secondary aim is for students to improve their ability to discuss linguistics research, give oral presentations, and write papers in English. It is strongly recommended that students who want to take this course take 応用言語学論文演習 (4A) first.
授業計画	Class format will include oral presentations, discussion, and an independent research project. Weeks 1-6 will focus on readings from the course text (see below). Students will also select a topic for their research project. During Weeks 7-11, students will do oral presentations on project-related readings of their choice. During Weeks 12-15, students will present the results of their projects and write up their results in a short paper. Note: Presentation/discussion of English readings will be conducted in English, and presentation/discussion of Japanese readings will be conducted in Japanese. Students are free to choose the language of use for their research projects. 第 1 回 Course introduction/Independent project assignment/ Presentation schedule for Weeks 2-6 第 2 回 Oral presentation and discussion (course text) 第 3 回 Independent research project: Topic presentations 第 4 回 Oral presentation and discussion (course text) 第 5 回 Oral presentation and discussion (course text)/ Presentation schedule for Weeks 7-11 第 6 回 Oral presentation and discussion (course text) 第 7 回 Oral presentation and discussion (project-related reading) 第 8 回 Oral presentation and discussion (project-related reading) 第 9 回 Oral presentation and discussion (project-related reading)/ Presentation schedule for Weeks 11-15 第 10 回 Oral presentation and discussion (project-related reading) / Final paper guidelines 第 11 回 Oral presentation and discussion (project-related reading) 第 12 回 Independent research project: Final presentation (1)

	第 13 回 Independent research project: Final presentation (2) 第 14 回 Independent research project: Final presentation (3) 第 15 回 Independent research project: Final presentation (4)/ Course evaluation 1) The general topic for the independent research project is "Second language vocabulary research." Students are free to decide how to limit this topic, based on their own background and interests. 2) Readings must be distributed to all participants no later than one week in advance. 3) The weekly schedule above is tentative and subject to change, depending on the number of participants.
成績評価方法	Students will be evaluated on the basis of class participation (30%), oral presentations (30%), and an independent research project/paper (40%).
教科書	1. Nation, I.S.P. and Stuart Webb. 2011. Researching and Analyzing Vocabulary. Heinle/Cengage Learning. See especially Chapter 10 "Researching Multiword Units" and Chapter 14 "Issues in Researching and Analyzing Vocabulary". Keywords: vocabulary, multi-word units, corpus-based research, intentional learning, incidental learning, research design
参考書	1. Hanks, Patrick. 2013. Lexical Analysis: Norms and Exploitations. The MIT Press. 2. Gibaldi, Joseph. MLA Handbook for Writers of Research Papers (7th Edition). 2009. The Modern Language Association of America. 3. Matthews, P.H. 2007. Oxford Concise Dictionary of Linguistics (2nd Edition). Oxford University Press.
オフィスアワー	火 3 限、水 3 限、その他 (面会の日時についてメールでご相談ください。) 人文社会学系棟 A606 029-853-4138 ishida.priscilla.fn at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語教育学研究 (4A)
科目番号	02DT239
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育学分野の論文講読を通じ、クリティカルに物事を捉える基礎的な力を身につける。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語教育方法の改善に役立つと思われる論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性について全員で討議する。
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文 (日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第 1 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 2 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 3 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 4 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 5 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 6 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 7 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 8 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 9 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 10 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 11 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 12 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 13 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 14 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 15 回日本語教育学分野の論文講読および討議
成績評価方法	出席、発表、討論参加、他者評価内容、期末課題等による総合判定。
教科書	
参考書	授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語教育学、日本語教育方法論、クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学研究 (4B)
科目番号	02DT240
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	松崎 寛
授業概要	日本語教育方法の改善に役立つ論文を取り上げ、方法論上の問題点や、推論の妥当性を検討する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語教育学分野の論文を履修者全員で深く読みとき、物事をクリティカルに捉える基礎的な力を身につける。
授業計画	「日本語教育方法の改善に役立つと思われる実験・調査を行っている論文 (日本語)」をとりあげ、その研究の方法論に関して討議する。受講生は、口頭による発表方法を工夫し、また積極的に議論に参加することが期待される。 第 1 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 2 回日本語教育学、日本語教育方法論、およびクリティカルシンキングに関する授業担当者の講義 第 3 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 4 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 5 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 6 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 7 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 8 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 9 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 10 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 11 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 12 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 13 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 14 回日本語教育学分野の論文講読および討議 第 15 回日本語教育学分野の論文講読および討議
成績評価方法	出席、発表、討論参加、他者評価内容、期末課題等による総合判定。
教科書	
参考書	授業内で適宜指示する
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語教育学、日本語教育方法論、クリティカルシンキング

授業科目名	日本語教育学演習 (4A)
科目番号	02DT249
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	一二三 朋子
授業概要	大量のデータを分析する際に必要な統計について概説し、統計を使った論文講読や、統計を使った研究計画について検討する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	量的研究における統計の理解を深める。
授業計画	統計と使った論文を講読し、統計がどのように使われているかの理解を促す。 第 1 回オリエンテーション。これからの予定について。 第 2 回統計を使った論文講読 1 回目:統計を使うための予備知識 第 3 回統計を使った論文講読 2 回目:さまざまな尺度 第 4 回統計を使った論文講読 3 回目:有意差 第 5 回統計を使った論文講読 4 回目:χ^2 乗検定 第 6 回統計を使った論文講読 5 回目:χ^2 乗検定の実習 第 7 回統計を使った論文講読 6 回目:平均値と分散 第 8 回統計を使った論文講読 7 回目:平均値と分散の実習 第 9 回統計を使った論文講読 8 回目:t 検定 第 10 回統計を使った論文講読 9 回目:t 検定の実習 第 11 回統計を使った論文講読 10 回目:分散分析の考え方 第 12 回統計を使った論文講読 11 回目:1 要因の分散分析 第 13 回統計を使った論文講読 12 回目:交互作用 第 14 回統計を使った論文講読 13 回目:多重比較 第 15 回統計のまとめ
成績評価方法	出席率 70% 以上。 授業で出した課題の提出物などから評価。
教科書	教科書はなし。講読する論文については、授業時に紹介する。
参考書	
オフィスアワー	木 5 限
TF・TA	
キーワード	量的研究, 統計, 研究計画

授業科目名	日本語教育学演習 (4B)
科目番号	02DT250
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	一二三 朋子
授業概要	受講者の論文テーマに沿って、研究方法や分析方法について討論し、統計の利用の仕方を検討する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	量的研究について、統計を応用した研究計画を考える。
授業計画	統計の中でも関係を見る統計についての理解を深める。 第 1 回統計を使った論文講読 15 回目:関係を見る統計 第 2 回統計を使った論文講読 16 回目:相関 第 3 回統計を使った論文講読 17 回目:相関の実習 第 4 回統計を使った論文講読 18 回目:因子分析 第 5 回統計を使った論文講読 19 回目:因子分析の実習 第 6 回統計を使った論文講読 20 回目:回帰分析 第 7 回統計を使った論文講読 21 回目:単回帰分析 第 8 回統計を使った論文講読 22 回目:重回帰分析 第 9 回統計を使った論文講読 23 回目:パス解析 第 10 回統計を使った論文講読 24 回目:要因計画 第 11 回統計を使った論文講読 25 回目:被験者内と被験者間 第 12 回統計を使った論文講読 26 回目:多重比較 第 13 回統計を使った論文講読 27 回目:質問紙の作り方 第 14 回統計を使った論文講読 28 回目:データ入力 第 15 回統計を使った論文講読 29 回目:結果の読み方
成績評価方法	出席率 70% 以上。授業時の課題などから評価。
教科書	教科書はない。授業時に参考図書や論文などを紹介する。
参考書	
オフィスアワー	木 3 限
TF・TA	
キーワード	量的研究, 統計, 研究計画

授業科目名	日本語構造論研究 (4A)
科目番号	02DT259
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	記述的研究の立場から現代日本語の格と動詞の分析を行いながら、記述的研究のあるべき姿を考える。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	記述的研究の意義を見直し、その方法論を身につける。
授業計画	第 1 回記述的研究とは何か (1) 第 2 回記述的研究とは何か (2) 第 3 回格をどのように捉えるか (1) 第 4 回格をどのように捉えるか (2) 第 5 回格とヴォイス、アスペクトとの関係 第 6 回ヲ格の諸問題 第 7 回ヲ格の分析 (1) 第 8 回ヲ格の分析 (2) 第 9 回ヲ格の分析 (3) 第 10 回ヲ格の分析 (4) 第 11 回ヲ格の分析 (5) 第 12 回ヲ格の分析 (6) 第 13 回ヲ格とその他の格 (1) 第 14 回ヲ格とその他の格 (2) 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度とレポートを総合して評価する。
教科書	授業時にプリントを配布する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B611 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	日本語文法論, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論研究 (4B)
科目番号	02DT260
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 2
担当教員	杉本 武
授業概要	コーパスを用いた言語研究の手法を学び、現代日本語の格、動詞等の分析を行う。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	コーパスの適正な利用法について理解を深める
授業計画	第 1 回コーパスとは何か (1) 第 2 回コーパスの利用法 第 3 回コーパス言語学の方法 第 4 回受講者による発表と討論 (1) 第 5 回受講者による発表と討論 (2) 第 6 回受講者による発表と討論 (3) 第 7 回受講者による発表と討論 (5) 第 8 回受講者による発表と討論 (6) 第 9 回受講者による発表と討論 (7) 第 10 回受講者による発表と討論 (8) 第 11 回受講者による発表と討論 (9) 第 12 回受講者による発表と討論 (10) 第 13 回受講者による発表と討論 (11) 第 14 回受講者による発表と討論 (12) 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への参加度と研究発表を総合して評価する。
教科書	授業時に配布する。
参考書	授業時に適宜指示する。
オフィスアワー	メールによるアポイントメント 人 文 社 会 学 系 棟 B611 sugimoto.takeshi.ge at u.tsukuba.ac.jp http://www.u.tsukuba.ac.jp/~sugimoto.takeshi.ge/
TF・TA	
キーワード	コーパス言語学, 日本語文法論, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (4A)
科目番号	02DT269
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本語文法の諸現象について、「主観性」の観点から考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語文法の係助詞、副助詞、とりたて詞に関する研究の現状と課題についての理解を深めると同時に、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	現代日本語の係助詞、副助詞、とりたて詞等について、これらを扱う主要論文を読み、これに対する受講者全員での討論を通して、研究の現状を理解し、課題を整理する。 第 1 回係助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 2 回係助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 3 回係助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 4 回係助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 5 回係助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 6 回副助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 7 回副助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 8 回副助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 9 回副助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 10 回副助詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 11 回とりたて詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 12 回とりたて詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 13 回とりたて詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 14 回とりたて詞に関する主要論文の内容報告と討論 第 15 回とりたて詞に関する主要論文の内容報告と討論
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	現代日本語, 文法, 記述的研究

授業科目名	日本語構造論演習 (4B)
科目番号	02DT270
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	沼田 善子
授業概要	現代日本語の「とりたて」等に関わる諸現象について、受講者の発表とそれに対する討論を通し、言語主観性の観点から考察する。ここでの考察は、他言語との比較対照もできる限り交えながら、日本語教育等への応用を視野に入れて進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語文法の記述的研究の現状と課題について理解を深め、これを踏まえた受講者各自の研究発表と討論を通して、記述的研究の方法論を学ぶ。
授業計画	現代日本語の主題助詞「は」、とりたて詞、形式副詞等に関する諸現象について、受講者各自の発表とそれに対する討論を通し、考察する。 第 1 回受講者の発表及び討論 第 2 回受講者の発表及び討論 第 3 回受講者の発表及び討論 第 4 回受講者の発表及び討論 第 5 回受講者の発表及び討論 第 6 回受講者の発表及び討論 第 7 回受講者の発表及び討論 第 8 回受講者の発表及び討論 第 9 回受講者の発表及び討論 第 10 回受講者の発表及び討論 第 11 回受講者の発表及び討論 第 12 回受講者の発表及び討論 第 13 回受講者の発表及び討論 第 14 回受講者の発表及び討論 第 15 回受講者の発表及び討論
成績評価方法	授業時の発表と討論への参加のあり方を相互的に判断して、評価する。
教科書	特になし。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	金:面会は、必ず事前にメール等で予約してください。 人文社会学系棟 numata.yoshiko.gb at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	記述的研究, 現代日本語, 文法

授業科目名	対照言語学研究 (4A)
科目番号	02DT279
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	対照言語学的視点から、文法・談話に関する現象を取り上げ、記述・分析を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	
授業計画	文献の講読を行いながら、それぞれのトピックについて、日本語及び、各々の言語における現象の記述と分析を行う。
成績評価方法	授業の出欠、発表担当回、毎回の議論への貢献度を総合して評価
教科書	
参考書	
オフィスアワー	澤田浩子 火:3 時限目 sawada.hiroko.gb@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	対照言語学研究 (4B)
科目番号	02DT280
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	澤田 浩子
授業概要	文法・談話の両領域に関する現象の記述をもとに、言語行動、発話行為について考察を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	
授業計画	文献の講読を行いながら、それぞれのトピックについて、日本語及び、各々の言語における現象の記述と分析を行う。
成績評価方法	授業の出欠、発表担当回、毎回の議論への貢献度を総合して評価
教科書	
参考書	
オフィスアワー	澤田浩子 火:3 時限目 sawada.hiroko.gb@u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	対照言語学演習 (4A)
科目番号	02DT289
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	統語論に基づく言語間の比較・対照の方法を学ぶ。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	統語論に基づく言語間の比較・対照の方法を学ぶ。
授業計画	比較統語論に関する新旧の文献の発表と討論を行う。毎回担当者を決めて、発表と討論を中心に授業を進める。 第 1 回イントロ 第 2 回発表と質疑 1 第 3 回討論 1 第 4 回発表と質疑 2 第 5 回討論 2 第 6 回発表と質疑 3 第 7 回討論 3 第 8 回発表と質疑 4 第 9 回討論 4 第 10 回発表と質疑 5 第 11 回討論 5 第 12 回発表と質疑 6 第 13 回討論 6 第 14 回予備日 第 15 回まとめ
成績評価方法	授業への貢献度 (50%) と期末レポート (50%)
教科書	授業の最初に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 生成文法理論, 構造と意味のインターフェイス

授業科目名	対照言語学演習 (4B)
科目番号	02DT290
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 5
担当教員	竹沢 幸一
授業概要	日本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	本語を中心に言語間の比較・対照を行いながら、人間言語の文法の個別性と普遍性について記述的及び理論的に考察を行う。
授業計画	日本語と他言語との比較統語論を扱った論文の発表と討論。
成績評価方法	授業への参加度と期末レポート。
教科書	授業の初めに指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	比較統語論, 日本語統語論, 構造と意味のインターフェイス, 生成文法理論

授業科目名	日本語音韻研究 (4A)
科目番号	02DT407
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	分節音韻論に関する近年の論考を講読し、分析の基盤となる諸理論について理解を深めつつ、日本語音韻研究の新たな課題を探る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	分節現象にかかわる音韻理論について理解を深め、理論的視座から日本語音韻研究の課題を自ら開拓できるようにする。
授業計画	1 回 ガイダンス 2~3 回 音韻理論の展開と成果について 4~14 回 文献の講読と討議 15 回 まとめ
成績評価方法	授業への出席 (40%) 討論および発表の内容 (40%) レポート・課題等の内容 (20%)
教科書	1. The Blackwell Companion to Phonology
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語音韻研究 (4B)
科目番号	02DT408
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 5
担当教員	那須 昭夫
授業概要	韻律現象に関する近年の論考を講読し、分析の基盤となる諸理論について理解を深めつつ、日本語韻律研究の新たな課題を探る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	言語の韻律にかかわる諸理論について理解を深め、理論的視座から日本語韻律研究の課題を自ら開拓できるようにする。
授業計画	1 回 ガイダンス 2~3 回 韻律理論の展開と成果について 4~14 回 文献の講読と討議 15 回 まとめ
成績評価方法	授業への出席 (40%) 討論および発表の内容 (40%) レポート・課題等の内容 (20%)
教科書	1. The Blackwell Companion to Phonology
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	日本語文法研究 (4A)
科目番号	02DT417
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	日本語意味論・語用論に関する動向を検討し、いくつかのトピックについて論考の検討・解説を行う。可能な範囲で他言語との対照も視野に含める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域 (現代語の連体修飾を中心とする) の概観・問題点を探り、先行研究や自分の研究を適切に評価・検討できる能力を身につける。
授業計画	第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整他 第 2 回連体修飾構造の種類 (1) 大島 2010・奥津 1974・寺村 1992 他当該部分の検討・討議。 第 3 回連体修飾構造の種類 (2) 大島 2010・高橋太郎 1994・加藤重広 2003 他当該部分の検討・討議。 第 4 回連体修飾構造の種類 (3) 大島 2010・高橋美奈子 2006・2012 他当該部分の検討・討議。 第 5 回連体修飾構造の種類 (4) 大島 2010・西山 2003・2004・三宅 2011 他当該部分の検討・討議。 第 6 回連体修飾構造の種類 (5) 大島 2010・丹羽 2010-2011 他当該部分の検討・討議。 第 7 回連体修飾構造とトイウ (1) 大島 2010・寺村 1992・戸村 1990・1991・1992 他当該部分の検討・討議。 第 8 回連体修飾構造とトイウ (2) 大島 2010・中畠 1990・高橋美奈子 1994 他当該部分の検討・討議。 第 9 回準体句とその周辺 (1) 大島 2010・久野 1973・野田 1995 他当該部分の検討・討議。 第 10 回準体句とその周辺 (2) 大島 2010・黒田 1974-77・外崎 1997 他当該部分の検討・討議。 第 11 回準体句とその周辺 (3) 大島 2010・天野 2012・渡邊 2008 他当該部分の検討・討議。 第 12 回参加者のオリジナル発表・討議 (1) 第 13 回参加者のオリジナル発表・討議 (2) 第 14 回参加者のオリジナル発表・討議 (3) 第 15 回まとめ・展望
成績評価方法	発表、討議への貢献、提出物により評価
教科書	事前に入手しておく文献はありません。 授業時に各種指示・紹介します。(各回の記述も参照)
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語意味論, 連体修飾, トイウ

授業科目名	日本語文法研究 (4B)
科目番号	02DT418
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 3
担当教員	橋本 修
授業概要	日本語意味論・語用論における近年の論考を、方言・古典語等も視野に入れながら検討する。導入としては青木博史編 2011 所収の論文を検討する予定。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語文法論、特に意味論・語用論について、当該領域 (副助詞句とその周辺) の史的再構、通時的变化を含めた概観を行い、現段階での問題点や今後の研究テーマの洗い出しを行って、各自の研究能力の向上に資する。
授業計画	第 1 回ガイダンス 取り扱う資料の概観・検討・調整 第 2 回限定系副助詞句 (1) 宮地 2010・2013 他、該当部分の検討・討議。 第 3 回限定系副助詞句 (2) 江口 2007、宮地 2007 他、該当部分の検討・討議。 第 4 回限定系副助詞句 (3) 小柳 2003、渡邊 2002 他、該当部分の検討・討議。 第 5 回程度系副助詞句 (1) 小柳 1997・2007、江口 2007 他、該当部分の検討・討議。 第 6 回程度系副助詞句 (2) 近藤 1995、小柳 1999 他、該当部分の検討・討議。 第 7 回形式副詞句とその周辺 (1) 高宮 2004、衣畑 2007 他、該当部分の検討・討議。 第 8 回形式副詞句とその周辺 (2) 吉田 2007、李 2002 他、該当部分の検討・討議。 第 9 回形式副詞句とその周辺 (3) 竹内 2007、福島 2011 他、該当部分の検討・討議。 第 10 回形式副詞句とその周辺 (4) 永田 2011、井上 2009 他、該当部分の検討・討議。 第 11 回参加者のオリジナル発表・討議 (1) 第 12 回参加者のオリジナル発表・討議 (2) 第 13 回参加者のオリジナル発表・討議 (3) 第 14 回参加者のオリジナル発表・討議 (4) 第 15 回まとめ・展望
成績評価方法	発表・討論への貢献、提出物を総合的に評価
教科書	テキストの事前準備は不要。各回の使用資料を授業時に決めながら選定する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	意味論, 副助詞, 形式副詞

授業科目名	日本語史研究 (4A)
科目番号	02DT427
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	坪井 美樹
授業概要	日本語史研究上の諸問題を取り上げ講義する。本講義では日本語における体系変化と個別変化に関わる問題を取り上げる。1 上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり 2 音韻体系と語彙体系の関わり (いわゆる「音便現象」、長音の発生、清・濁) 3 日本語表記システムの変遷
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語史研究上の諸問題を取り上げ講義する。本講義では日本語における体系変化と個別変化に関わる問題を取り上げる。(1) 上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり、(2) 音韻体系と語彙体系の関わり (いわゆる「音便現象」、長音の発生、清・濁)、(3) 日本語表記システムの変遷、について考察する。 日本語史研究上どのようなテーマが存在し、当該テーマに研究者としてどのようにアプローチできるかを学び、また、受講生自らオリジナルに考えることが出来るようになることを目標とする。
授業計画	日本語における歴史的変遷について学ぶが、特に体系の変化と個々の語や音韻の変化との関わりをテーマに考察を加える。 第 1 回本授業の概要説明 第 2 回上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり (その 1) 上代日本語の音韻体系について学ぶ (特にいわゆる「上代特殊仮名遣い」について説明する)。 第 3 回上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり (その 2) 上代日本語の文法体系について学ぶ (特に活用体系について説明する)。 第 4 回上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり (その 3) 上代の動詞活用における各活用形の音形を知り、平安時代以降の動詞活用と比較する。 第 5 回上代日本語における音韻体系と文法体系の関わり (その 4) 「形態の示差性」の観点から音韻体系の変化と活用体系の変化との関わりを考察する。 第 6 回音韻体系と語彙体系の関わり (いわゆる「音便現象」)(その 1) 「音便」と呼ばれる現象について考察する。 第 7 回音韻体系と語彙体系の関わり (いわゆる「音便現象」)(その 2) 音便形と非音便形との関係について考察する。 第 8 回音韻体系と語彙体系の関わり (長音の発生)(その 1) 日本語史上における長音の発生について考察する。 第 9 回音韻体系と語彙体系の関わり (長音の発生)(その 2) 親族語彙を例として長音の役割について考察する。 第 10 回音韻体系と語彙体系の関わり (清・濁) 清音と濁音の関係、連濁の役割について考察する。 第 11 回日本語表記システムの変遷 (その 1) 漢字の受容と仮名の成立について考察する。 第 12 回日本語表記システムの変遷 (その 2) 仮名遣いの成立、藤原定家の用字法について考察する。 第 13 回日本語表記システムの変遷 (その 3) ひらがなとカタカナの成立、漢字仮名交じりの用字法について考察する。

	第 14 回日本語表記システムの変遷 (その 4) 現代日本語の正書法について考察する。 第 15 回まとめ
成績評価方法	期末試験の成績と授業への参加状態で評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語史, 体系変化と個別変化, 上代日本語, 音便, 長音, 清濁, 表記システム

授業科目名	日本語史研究 (4B)
科目番号	02DT428
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	坪井 美樹
授業概要	日本語史研究上の諸問題について講義する。本講義では、日本語における自己と他者の関係表示に関する問題を取り上げる。1 授受表現の発達 (待遇表現の変化)2 性差の変遷 3 ネーミング (命名)・呼称
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	日本語史研究上の諸問題について講義する。本講義では、日本語における自己と他者の関係表示に関する問題を取り上げる。(1) 授受表現の発達 (待遇表現の変化)、(2) 性差の変遷、(3) ネーミング (命名)・呼称、について考察する。
授業計画	日本語における自己と他者の関係表示に関わる表現の歴史的変遷を中心に取り上げて講義する。 第 1 回授業概要の説明 第 2 回授受表現の発達 (待遇表現の変化)(その 1) 日本語の授受表現体系について説明する。 第 3 回授受表現の発達 (待遇表現の変化)(その 2) 中世以後の近代日本語における授受表現の発達について説明する。 第 4 回授受表現の発達 (待遇表現の変化)(その 3) 「多方面」の授受表現、授受表現体系について考察する。 第 5 回授受表現の発達 (待遇表現の変化)(その 4) 古代日本語における敬語表現体系とその後の変遷について説明する。 第 6 回授受表現の発達 (待遇表現の変化)(その 5) 待遇表現の変遷として敬語表現体系と授受表現体系の関わりについて考察する。 第 7 回性差の変遷 (その 1) 古代日本語における性差 (漢字と仮名) について考察する。 第 8 回性差の変遷 (その 2) 古代日本語における性差を『源氏物語』等を例に考察する。 第 9 回性差の変遷 (その 3) 古代日本語における性差を『堤中納言物語』『虫愛づる姫君』を例に考察する。 第 10 回性差の変遷 (その 4) 中世日本語の性差について考察する (女房言葉、『日葡辞書』等)。 第 11 回性差の変遷 (その 5) 近世日本語における性差について考察する。 第 12 回性差の変遷 (その 6) 現代日本語における性差の成立について考察する。 第 13 回ネーミング (命名)・呼称 (その 1) 鳥や虫の名称とオノマトペとの関わりについて考察する (『和名類聚鈔』等)。 第 14 回ネーミング (命名)・呼称 (その 2) 色彩語彙の体系、呼称詞について考察する。 第 15 回まとめ
成績評価方法	期末試験の成績と授業への参加状況で評価する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語史, セルフ・アイデンティティ, 授受表現, 待遇表現, 敬語表現, 性差 (ジェンダー), ネーミング (命名), 呼称

授業科目名	日本語史料研究 (4A)
科目番号	02DT437
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	狂言諸台本の日本語史料としての位置づけを考える。その手がかりとして享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読む。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 01B4500 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	狂言台本の日本語史料としての価値を考える。古典芸能としての能・狂言の基礎知識をふまえて、享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読む。
授業計画	文献資料をひもときながら、日本語の変遷を文法/語彙を中心に確認する。資料として享保 15 年刊『狂言記拾遺』を版本で読む。授業では変体仮名に慣れるとともに、能・狂言という芸能について、ビデオや実際の舞台も見て知識を深める。その上で、他の狂言台本との読み比べをはじめ。 第 1 回狂言について 能との共通点・相違点 第 2 回狂言の歴史 第 3 回狂言台本について 第 4 回狂言記について 第 5 回版本の講読 (本年度は巻三から) 順次他の狂言台本との比較を進める。
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を読み上げる、他の狂言台本との比較読みをする) と、期末のレポートにより評価する。
教科書	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。 参考書については、適宜授業で紹介、指示する。
参考書	『狂言記』(橋本・土井 新日本古典文学大系 岩波書店) 『狂言記拾遺の研究』(北原・吉見 勉誠社)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言記, 狂言のことば, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	日本語史料研究 (4B)
科目番号	02DT438
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	大倉 浩
授業概要	残された諸流の狂言台本を『狂言記拾遺』と用語を中心に比較する。また、現在の舞台の映像も参考に、狂言用語の変容について考える。
備考	2014 年度より 4 年おき開講。 01B4501 と同一。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	各流派の狂言台本と『狂言記拾遺』との内容や用語の比較を通して、狂言の日本語史料としての価値と研究法について検討する。実演を観たり演者の話を聞いたりして、より狂言についての理解を深める機会を作る。
授業計画	享保 15 年刊『狂言記拾遺』を読み、他の狂言台本との比較をその場で行う。 第 1 回古典芸能としての狂言 第 2 回狂言台本について 狂言記について 第 3 回版本の講読 (順次) 現役狂言師による実技指導も予定している。
成績評価方法	授業への参加状況 (実際に版本を読み上げる、他台本との読み比べをする) と学期末レポートによる。
教科書	版本のコピーおよび翻刻を受講者に配布する。その他の参考書は授業で適宜指示する。
参考書	『狂言記』(橋本・土井 新日本古典文学大系 岩波書店) 『狂言記拾遺の研究』(北原・吉見 勉誠社)
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	狂言, 古典芸能のことば, 狂言記, 中世日本語, 近世日本語

授業科目名	現代日本語研究 (4A)
科目番号	02DT447
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析する。今年度は、主として語順 (述部の構成要素の語順、格成分および副詞的修飾成分の語順等) を扱う。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	現代日本語における種々の言語現象を題材に、データ分析の手法や理論的な説明など、日本語研究に必要な知識と技能を身につけることを目的とする。
授業計画	現代日本語における種々の言語現象の分析を進める。本年度は、昨年度に続き、日本語の自他に関する分析を進めるとともに、格や副詞的修飾など、さまざまな観点から、日本語の「文型」について検討する。 第 1 回 (ガイダンス) 授業に関する基本的な説明を行う 第 2 回現代日本語動詞の自他 (1) 日本語の自他に関する基本的な解説を行う。 第 3 回現代日本語動詞の自他 (2) 従来の自他の規定と、それを支える言語現象について検討する。主として、「自他対応」について観察する。 第 4 回現代日本語動詞の自他 (3) 従来の自他の規定と、それを支える言語現象について検討する。主として、「を」格の出現状況について観察する。 第 5 回現代日本語動詞の自他 (4) 従来の自他の規定と、それを支える言語現象について検討する。主として、能動・受動・使役について観察する。 第 6 回現代日本語動詞の自他 (5) 従来の自他の規定と、それを支える言語現象について検討する。主として、自他の意味的な側面について観察する。 第 7 回現代日本語動詞の自他 (6) 従来の自他の規定と、それを支える言語現象について検討する。原則から外れる例外的な現象について観察する。 第 8 回現代日本語の文型 (1) 日本語の文型について検討する。主として、自動詞文について観察する。 第 9 回現代日本語の文型 (2) 日本語の文型について検討する。主として、自動詞文について観察する (先週の続き)。 第 10 回現代日本語の文型 (3) 日本語の文型について検討する。主として、他動詞文について観察する。 第 11 回現代日本語の文型 (4) 日本語の文型について検討する。主として、他動詞文について観察する (先週の続き)。 第 12 回現代日本語の文型 (5) 日本語の文型について検討する。自動詞文と他動詞文の関連について観察する。 第 13 回現代日本語の文型 (6) 日本語の文型について検討する。自動詞文と他動詞文の関連について観察する (先週の続き)。 第 14 回現代日本語の文型 (7) 日本語の文型について検討する。語順について観察する。 第 15 回現代日本語の文型 (8) 日本語の文型について検討する。課題となるいくつかの文型について観察する。
成績評価方法	
教科書	
参考書	

オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代日本語, 文法, 文型, コーパス

授業科目名	現代日本語研究 (4B)
科目番号	02DT448
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 3
担当教員	矢澤 真人
授業概要	現代日本語に見られる種々の言語現象について分析する。今年度は主として、語順を扱う。コーパスやアンケートなどの調査を元に、受講者が発表する形で進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	現代日本語の種々の現象について、具体的な例をもとに分析していく。主として、受講者の発表により、授業を進める。
授業計画	現代日本語の種々の現象を分析し、理論化を試みる実践的な演習を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回現代日本語の動詞論 (1) 現代日本語の動詞に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める。 第 3 回現代日本語の動詞論 (2) 現代日本語の動詞に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 4 回現代日本語の動詞論 (3) 現代日本語の動詞に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 5 回現代日本語の動詞論 (4) 現代日本語の動詞に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 6 回現代日本語の動詞論 (5) 現代日本語の動詞に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 7 回現代日本語の動詞論 (6) 現代日本語の動詞に関わる課題について総括し、今後の研究のあり方について検討する。 第 8 回現代日本語の文型論 (1) 現代日本語の文型に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める。 第 9 回現代日本語の文型論 (2) 現代日本語の文型に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 10 回現代日本語の文型論 (3) 現代日本語の文型に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 11 回現代日本語の文型論 (4) 現代日本語の文型に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 12 回現代日本語の文型論 (5) 現代日本語の文型に関わる種々の現象を題材に、受講者の研究発表の形式で検討を進める (先回の続き)。 第 13 回現代日本語の文型論 (6) 現代日本語の文型論に関わる課題について総括し、今後の研究のあり方を検討する。 第 14 回現代日本語の研究と応用 (1) 現代日本語における研究成果と言語教育や辞書編集、言語処理など関連分野との関わりについて検討する。 第 15 回現代日本語の研究と応用 (2) 引き続き、現代日本語における研究成果と言語教育や辞書編集、言語処理など関連分野との関わりについて検討するとともに、全体の総括を行う。
成績評価方法	
教科書	
参考書	
オフィスアワー	

TF・TA	
キーワード	現代日本語, 自他論, 文型論, 語順論

授業科目名	日本語学演習 (4A)
科目番号	02DT457
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	大倉 浩, 坪井 美樹, 那須 昭夫, 橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	日本語研究の方法と実践をテーマとし、受講者の研究発表とそれについての全員の討論によって進める演習。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本語学研究に関する専門的な議論が行える能力を身につける。
授業計画	第 1 回背景となる知識の確認、照合 第 2 回受講者の発表および参加者の討論 (順次)
成績評価方法	発表・討論等における貢献による。
教科書	なし
参考書	受講者それぞれの専門によるので指定はない。メンバーにより、随時言及する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学, 方法論, 討論の技術

授業科目名	日本語学演習 (4B)
科目番号	02DT458
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	大倉 浩, 坪井 美樹, 那須 昭夫, 橋本 修, 矢澤 真人
授業概要	最新の日本語研究に触れ、受講者自身の研究を磨く演習。学会発表や論文投稿を念頭に、受講者の研究発表と全員の討論を中心に進める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	日本語学について専門的な議論を行う能力、およびオーディエンスに合わせた研究発表・プレゼンテーションを行う能力を身につける。
授業計画	第 1 回背景的知識の確認・照合 第 2 回受講者の発表と参加者の討論 (順次) (受講者以外のトークも含む)
成績評価方法	発表・討論等受講者の授業への貢献による。
教科書	なし
参考書	受講者の専門により異なるので、授業時に説明する。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	日本語学, 方法論, 討論の技術, プレゼンテーション

授業科目名	認知意味論 (4A)
科目番号	02DT507
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 3
担当教員	金谷 優, 廣瀬 幸生
授業概要	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、言語の意味と認知に焦点をあてる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、言語の意味と認知にかかわる問題を中心に考察する。
授業計画	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、言語の意味と認知にかかわる問題に焦点をあてる。なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。 第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6 第 8 回中間のまとめと復習 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7 第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8 第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9 第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10 第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11 第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12 第 15 回全体のまとめと総括
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	1. 初回授業で紹介する
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	認知意味論 (4B)
科目番号	02DT508
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 3
担当教員	金谷 優, 廣瀬 幸生
授業概要	
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	認知言語学的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけ、かつ、具体例を用いて自らの言葉でまとめたり、解説したりできるようになることが到達目標である。この授業では、主に、構文の形式と機能に焦点を当てる。
授業計画	言語の形式と意味の対応関係にかかわる問題について、英語と日本語を比較対照しながら考察し、しかるべき言語記述のあり方について考える。主として、構文の形式と機能に焦点をあてる。 なお、テキストは英語で書かれたものを扱う。 第 1 回第 1 回ガイダンス:授業のテーマの概観、授業の進め方の確認、など 第 2 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 1 第 3 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 2 第 4 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 3 第 5 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 4 第 6 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 5 第 7 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 6 第 8 回中間のまとめと復習 第 9 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 7 第 10 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 8 第 11 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 9 第 12 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 10 第 13 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 11 第 14 回担当箇所の報告に基づく議論・解説 12 第 15 回全体のまとめと総括
成績評価方法	評価は、担当箇所報告の中身、議論への参加度、タームペーパーを総合して行う。
教科書	1. 初回授業で紹介する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	生成統語論 (4A)
科目番号	02DT517
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 月 4
担当教員	島田 雅晴
授業概要	
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。本学は、主に虚辞要素にかかわる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9) 第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10) 第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11) 第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12) 第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13) 第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14)
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
教科書	第 1 回の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	メールで随時予約。
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 虚辞

授業科目名	生成統語論 (4B)
科目番号	02DT518
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 月 4
担当教員	島田 雅晴, 加賀 信広
授業概要	
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標および テーマ	生成統語論的観点から言語現象を捉え、分析する方法を身につけるとともに、具体例を用いて自ら分析を行い、かつ、自分の言葉で説明できるようになることが目標である。本学は、主に adposition にかかわる問題に焦点をあて、英語を中心にいくつかの文法現象をとりあげる。
授業計画	生成統語論の最近の論文をとりあげ、担当者を決めて内容の報告を行い、関連する項目について解説するとともに、それに基づいた討論を行う。 第 1 回ガイダンス 第 2 回論文の内容報告、解説、および、討論 (1) 第 3 回論文の内容報告、解説、および、討論 (2) 第 4 回論文の内容報告、解説、および、討論 (3) 第 5 回論文の内容報告、解説、および、討論 (4) 第 6 回論文の内容報告、解説、および、討論 (5) 第 7 回論文の内容報告、解説、および、討論 (6) 第 8 回論文の内容報告、解説、および、討論 (7) 第 9 回論文の内容報告、解説、および、討論 (8) 第 10 回論文の内容報告、解説、および、討論 (9) 第 11 回論文の内容報告、解説、および、討論 (10) 第 12 回論文の内容報告、解説、および、討論 (11) 第 13 回論文の内容報告、解説、および、討論 (12) 第 14 回論文の内容報告、解説、および、討論 (13) 第 15 回論文の内容報告、解説、および、討論 (14)
成績評価方法	プレゼンテーションの内容と学期末のタームペーパーの内容を総合して判断する。
教科書	第 1 回の授業時に指示する。
参考書	授業時に随時指示する。
オフィスアワー	メールで随時予約。
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, adposition

授業科目名	英語意味論演習 (4A)
科目番号	02DT527
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、語用論・機能論の論文を中心に行なう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、語用論・機能論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Horn, L. R. and G. Ward eds. (2004) The Handbook of Pragmatics (Blackwell Publishing).
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	語用論, 機能論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語意味論演習 (4B)
科目番号	02DT528
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	廣瀬 幸生, 和田 尚明, 金谷 優
授業概要	認知言語学・語用論研究・機能論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、認知言語学の論文を中心に行なう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、認知言語学に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	下記以外は、授業時に随時指示。 1. Geeraerts, D. and H. Cuyckens eds. (2007) The Oxford Handbook of Cognitive Linguistics (Oxford University Press).
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	認知言語学, 認知意味論, 文献・論文のまとめと紹介, 批判的検討

授業科目名	英語統語論演習 (4A)
科目番号	02DT537
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、統語論と形態論の関係に関する論文を中心に行なう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、移動現象・屈折に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (12) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語統語論演習 (4B)
科目番号	02DT538
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	加賀 信広, 島田 雅晴
授業概要	生成文法・統語論研究・形態論研究など、現代英語をめぐる様々なアプローチの研究動向を探る。最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文をもとにした発表と討論を行なう。特に、インターフェイスに関する論文を中心に行なう。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	独力で英語学・言語学に関する英語論文を読みこなし、自らの視点に立ってまとめ、批判的検討を加える力を会得するようになることが到達目標である。特に、比較統語論に関する文献・論文を題材にする。
授業計画	最新の言語学専門誌・論文集から選んだ論文の内容を学生がプレゼンテーションを行い、それに対して教員と学生で批判的な検討を加える。 第 1 回ガイダンス 第 2 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (1) 第 3 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (2) 第 4 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (3) 第 5 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (4) 第 6 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (5) 第 7 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (6) 第 8 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (7) 第 9 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (8) 第 10 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (9) 第 11 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (10) 第 12 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (11) 第 13 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (13) 第 14 回学生のプレゼンテーションに基づく、教員・学生による批判的検討 (14) 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、プレゼンテーションの内容や討論への参加度によって行う。
教科書	特になし。
参考書	特になし。
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	生成文法, 統語論, 形態論

授業科目名	英語学特講 (4A)
科目番号	02DT547
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	和田 尚明
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の充実を図る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、読解力の充実を図る。
授業計画	テンス・アスペクトに関する英語で書かれた文献を使って読解力を鍛え、批判的検討を加えつつ、参加者による議論を行う。適宜、解説を加える。主に、視点とテンスについて扱った文献を用いる。 第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (1) 第 3 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (2) 第 4 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (3) 第 5 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (4) 第 6 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (5) 第 7 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (6) 第 8 回報告者の要約に基づく、コメントと討議 (7) 第 9 回要約演習と討議 (1) 第 10 回要約演習と討議 (2) 第 11 回要約演習と討議 (3) 第 12 回要約演習と討議 (4) 第 13 回要約演習と討議 (5) 第 14 回論文全体の総括と討論 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、タームペーパーならびに授業への貢献度を総合的に判断して行う。
教科書	初回授業時に提示する。
参考書	1. Huddleston, R. and G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language, CUP.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	言語学的知識, 読解力

授業科目名	英語学特講 (4B)
科目番号	02DT548
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	和田 尚明
授業概要	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、表現力の充実を図る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	卒業論文・卒業研究等
授業の到達目標およびテーマ	英語学の文献を教材として用いながら、英語学研究を進めるうえで必要な言語学的知識、英語の読解力・表現力、言語分析力、論理的・批判的思考力などを養成する。特に、表現力の充実を図る。
授業計画	テンス・アスペクトに関する英語で書かれた文献を使って読解力を鍛え、批判的検討を加えつつ、参加者による議論を行う。適宜、解説を加える。主に、項構造とアスペクトの関係を扱った文献を用いる。 第 1 回ガイダンス 第 2 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (1) 第 3 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (2) 第 4 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (3) 第 5 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (4) 第 6 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (5) 第 7 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (6) 第 8 回報告者のプレゼンテーションに基づくコメントと討議 (7) 第 9 回プレゼンテーション演習と討議 (1) 第 10 回プレゼンテーション演習と討議 (2) 第 11 回プレゼンテーション演習と討議 (3) 第 12 回プレゼンテーション演習と討議 (4) 第 13 回プレゼンテーション演習と討議 (5) 第 14 回論文全体の総括と討論 第 15 回まとめ
成績評価方法	評価は、タームペーパーと授業への貢献度を総合して判断して行う。
教科書	初回授業時に提示する。
参考書	1. Huddleston, R. and G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language, CUP.
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	言語学的知識, 表現力

授業科目名	フランス語学研究 (4A)
科目番号	02DT607
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	現代フランス語研究の意義を明確にし、独自性のあるフランス語研究とは何かを事例を挙げながら理論的に考察する。 日本語とフランス語使用
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	現代フランス語の歴史的地位および現代における学術的・経済的価値について、多角的に検討する。
授業計画	1. フランス語の国際的地位 (国家語の成立) 2. フランス語の国際的地位 (普遍主義と合理主義) 3. フランス語の国際的地位 (辞書編纂) 4. フランス語の国際的地位 (原文主義と翻訳主義) 5. フランス語の国際的地位 (近代フランス語と植民地的拡大) 6. フランス語の国際的地位 (哲学と文学の言語) 7. フランス語の国際的地位 (フランコフォニーの構築) 8. フランス語の国際的地位 (現代社会における国際的役割) 以上のテーマについて講義をし、討論を行う。
成績評価方法	基本的知識の習得度、および自らの問題意識に基づく批判的考察の度合いに関して、授業中の討論、および期末試験によって測る。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	

授業科目名	フランス語学研究 (4B)
科目番号	02DT608
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 5
担当教員	青木 三郎
授業概要	現代フランス語文法研究の最新成果を視野に入れて、統語論・意味論・語用論の関係を捉える。日本語とフランス語使用
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ヨーロッパにおけるフランス語の使用状況、言語政策等について現状を学び、複数言語主義について理解を深める。
授業計画	1. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (フランス) 2. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (ベルギー) 3. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (スイス) 4. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (政治、行政、法律) 5. ヨーロッパにおけるフランス語の地位 (英語との比較) 6. ヨーロッパにおける言語政策とフランス語 (ロマンス語系) 7. ヨーロッパにおける言語政策とフランス語 (東ヨーロッパ) 8. 日本におけるフランス語 以上のテーマについて講義をし、討論を行う。
成績評価方法	学期当初に課題を出し、学期間中にレポートの提出を求める。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	EU 言語政策, フランコフォニー, 複数言語主義

授業科目名	フランス語学演習 (4A)
科目番号	02DT617
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	発話理論の基礎を紹介し、具体的な発話マーカの分析を通じて、言語主観性について理論的・実証的な分析を行う。日本語とフランス語使用
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標および テーマ	現代フランス語の語彙と文法的特徴について論じる。
授業計画	1. 現代フランス語の語彙の特徴 (事物を表す語彙) 2. 現代フランス語の語彙の特徴 (事物を表す語彙) 3. 現代フランス語の語彙の特徴 (人物名称) 4. 現代フランス語の語彙の特徴 (人物名称) 5. 現代フランス語の語彙の特徴 (文法的語彙) 6. 現代フランス語の語彙の特徴 (文法的語彙) 7. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 8. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 9. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 10. 現代フランス語の構文の特徴 (属詞構文の特徴) 以上のフランス語学研究のトピックを取り上げ、講義と討論を行う。
成績評価方法	フランス語の語彙あるいは文法に関するトピックを取り上げ、レポートを課する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	現代フランス語, 語彙論, 辞書編纂, 文法, 属詞

授業科目名	フランス語学演習 (4B)
科目番号	02DT618
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 6
担当教員	青木 三郎
授業概要	発話理論に基づき、具体的な発話マーカーク分析を通じて、発話間の連結に関するメカニズムについて分析する。日本語とフランス語使用
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	演習
授業の到達目標およびテーマ	文法カテゴリーとは何かを考察し、独自性のある文法研究を目指せるようにする。
授業計画	1. 文法カテゴリーとは何か 2. 文法カテゴリーと概念表象 3. 文法カテゴリーとしての数概念 4. 文法カテゴリーとしての数概念と表現性 5. 文法カテゴリーとしての指示限定 6. 文法カテゴリーとしての指示限定と表現性 7. 数概念の言語比較法 8. 数概念の言語比較ケーススタディ 9. 数概念と他の文法カテゴリーとの関係性 10. 数概念と主観性表現 以上のトピックに関して、講義と討論を通じて、認識を深める。
成績評価方法	文法研究のトピックに関してレポートと求め、また授業中には受講生自らの研究プレゼンテーションを課する。両者の総合点により成績を決定する。
教科書	
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	文法カテゴリー, 意味論, 語彙論

授業科目名	フランス語意味論 (4A)
科目番号	02DT627
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 5
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語意味論の個別の問題について考察する。この学期はとくに、認知モード (mode de cognition) の言語間比較に重点をおく。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、講読、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回以降: 論文を輪読しながら、講義、討論をする。フランス語意味論 (4A) とフランス語文法論 (4A) を関連づけて進めるので、可能な限り両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	坪本篤朗・早瀬尚子・和田尚明 (編)(2009): 『「内」と「外」の言語学』開拓社。 中村芳久 (2009): 「認知モードの射程」坪本ほか編, pp.353-393. 春木仁孝 (2011): 「フランス語の認知モードについて」『言語における時空をめぐって』(大阪大学) 9, pp.61-70. 藤田知子 (2012): 「Vous ê tes th é â tre ou cin é ma ? 構文に関する覚書」『神田外語大学紀要』24, pp.57-76. 本多 啓 (2009): 「他者理解における「内」と「外」」坪本ほか編, pp.55-97. 渡邊淳也 (2012): 「叙想的時制と叙想的アспект」『文藝言語研究・言語篇』(筑波大学) 61, pp.191-234. 渡邊淳也 (2013): 「主語不一致ジェロンディフについて」『文藝言語研究・言語篇』(筑波大学) 64, pp.95-178.
参考書	
オフィスアワー	水曜 4 限 (ただし毎月第 2 水曜は 5 限)、および木曜 4 限。 人文社会学系棟 B507
TF・TA	
キーワード	認知モード

授業科目名	フランス語意味論 (4B)
科目番号	02DT628
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 5
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語意味論の個別の問題について考察する。この学期は発話動詞の周辺、とくに言いかえ (reformulation) の表現に重点をおく。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語意味論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、研究発表、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回:導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回から第 6 回:発話動詞をもちいた諸表現に関する講義。 第 7 回以降:受講者に発表の順番をまわす。フランス語意味論 (4B) とフランス語文法論 (4B) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	順次担当していただく研究発表に対する評価と、平素の討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	A. Steuckardt et A. Niklas-Salmien (dir.) (2005) : Les marqueurs de glose, Presses universitaires de Provence.
参考書	
オフィスアワー	水曜 4 限 (ただし毎月第 2 水曜は 5 限)、および木曜 4 限。 人文社会学系棟 B507
TF・TA	
キーワード	発話動詞, 談話調整辞

授業科目名	フランス語文法論 (4A)
科目番号	02DT637
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 火 4
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語文法論の個別の問題について考察する。この学期はとくに、時制体系に重点をおく。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	フランス語文法論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、講読、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回: 導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回以降: 論文を輪読しながら、講義、討論をする。フランス語意味論 (4A) とフランス語文法論 (4A) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	提出課題に対する評価と、平素の論文講読や討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	Barcel ó , G. J. et J. Bres (2006) : Les temps de l'indicatif en fran ç ais, Ophrys. 渡邊淳也 (2014) : 『フランス語の時制とモダリティ』早美出版社.
参考書	
オフィスアワー	水曜 4 限 (ただし毎月第 2 水曜は 5 限)、および木曜 4 限。 人文社会学系棟 B507
TF・TA	
キーワード	時制

授業科目名	フランス語文法論 (4B)
科目番号	02DT638
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 火 4
担当教員	渡邊 淳也
授業概要	フランス語文法論の個別の問題について考察する。この学期はとくに、準助動詞への対照言語学的アプローチに重点をおく。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	フランス語文法論の最新の研究動向をふまえつつ、自らの立場を明確にして論ずることができるようにする。
授業計画	講義、研究発表、討論をとりまぜておこなう。 第 1 回:導入 (授業に関する説明、および授業のテーマに関する概観) 第 2 回から第 6 回:フランス語およびスペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語における準助動詞の対照研究に関する講義。 第 7 回以降:受講者に発表の順番をまわす。フランス語意味論 (4B) とフランス語文法論 (4B) を関連づけて進めるので、可能なかぎり両方の科目を同時に履修されたい。
成績評価方法	順次担当していただく研究発表に対する評価と、平素の討論への貢献に対する評価をひとしく重視する。
教科書	Florin, F. (Ed.) (2007) : La n é gation dans les langues romanes, John Benjamins. 渡邊淳也 (2010): 「拘束的用法の devoir, falloir の否定の多義性について」『文藝言語研究・言語篇』第 57 号
参考書	以下には推奨するコーパスをあげる。 E. Cresti et M. Moneglia (2005) : C-ORAL-ROM : Integrated Reference Corpora for Spoken Romance Languages, John Benjamins. Corpatext 1.02 http://www.lexique.org/public/lisezmoi.corpatext.htm CORPUS DEL ESPA Ñ OL 100.000.000 PALABRAS, sIII [sic] -XX (← 3 世紀はさすがに間違いで、13 世紀が正しい:渡邊註) http://www.corpusdelespanol.org/x.asp CORPUS DO PORTUGU Ê S 45.000.000 PALAVRAS, sXIII-XX http://www.corpusdoportugues.org/x.asp OPUS : open parallel corpus http://opus.lingfil.uu.se/

オフィスアワー	水曜 4 限 (ただし毎月第 2 水曜は 5 限)、および木曜 4 限。 人文社会学系棟 B507
TF・TA	
キーワード	準助動詞, 対照言語学

授業科目名	フランス語学特講 (4A)
科目番号	02DT647
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 水 2
担当教員	木田 剛
授業概要	本年度のテーマは「接触場面と言語形成の理論」。フランス国内のフランス語やフランス語圏の言語状況を概観することで、マクロの視点からも言語問題を取り扱うことに慣れ親しみ、ミクロ分析に応用できるような、言語学者としての実践力の涵養を目指す。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	本授業では言語学における「アイデンティティ」の問題を、歴史と現代に照らし合わせて考察することを主眼とする。フランス語やフランス語圏の現状や歴史、また他の諸言語を通して、社会と言語の関係や言語アイデンティティの問題を考察できる視点を身に付けることが目標である。本年度のテーマは「接触場面と言語形成の理論」。春学期にはフランス国内のフランス語やフランス語圏の言語状況を概観した後、相互行為の社会言語学に触れる。マクロの視点からも言語問題を取り扱うことに慣れ親しみ、ミクロ分析に応用できるような、言語学者としての実践力の涵養を目指す。
授業計画	フランコフォニーの言語状況に触れた後、テーマに関連する文献を講読する。 第 1 回講義の紹介、履修者の自己紹介、講義計画 第 2 回フランコフォニー概説 第 3 回フランコフォニー概要 1(発表) 第 4 回フランコフォニー概要 2(発表) 第 5 回言語接触と言語形成 1(講読) 第 6 回言語接触と言語形成 2(講読) 第 7 回言語接触と言語形成 3(講読) 第 8 回言語接触と言語形成 4(講読) 第 9 回言語接触と言語形成 5(講読) 第 10 回接触場面と社会秩序 1(講読) 第 11 回接触場面と社会秩序 2(講読) 第 12 回接触場面と社会秩序 3(講読) 第 13 回接触場面と社会秩序 4(講読) 第 14 回接触場面と社会秩序 5(講読) 第 15 回総まとめ
成績評価方法	出席:30%、発表 20%、発言:50%。出席日数が全体の 3 分の 2 を下回る受講者には単位を認めない。正当な理由がある場合のみ、レポート提出などの代替措置を協議する。授業中の発言での積極性を評価する。
教科書	仏語版は授業の前にコピーを配付する。 1. Chaudenson, Robert (1995). Les créoles. Paris, Que sais-je? 127 p.(フランス語のわからない受講生には和訳あり) 2. Calvet, Louis-Jean (1999). Pour une écologie des langues du monde. Paris, Plon. 304 p.

参考書	仏語版は授業の前にコピーを配付する。 1. ロベール・ショダンソン『クレオール語』糟谷啓介訳、クセジュ文庫 2. Goffman, Erving (1974). Les rites d'interaction. Paris, Minuit. 277 p.(Interactional ritual. Essays on Face-to-Face Behavior. New York, Pantheon Books, 1982. 『儀礼としての相互行為——対面行動の社会学』浅野敏夫訳、法政大学出版局、2012 年、新訳版) 3. Goffman, Erving (1987). Fa ç ons de parler. Paris, Minuit. 277 p.(Forms of talk. Philadelphia, University of Pennsylvania Press, 1981.) 4. Gumperz, John J. (1989). Engager la conversation. Introduction à la sociolinguistique interactionnelle. Paris, Minuit. 185 p.
オフィスアワー	メールにて随時 (火曜日全日および水曜日 2 限を除く) 人社棟 B804 および共同利用棟 A302-2 kida.tsuyoshi.ga at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	言語, 社会, アイデンティティ, フランコフォニー, 言語接触, クレオール, 接触場面, 相互行為, 言語寡占

授業科目名	フランス語学特講 (4B)
科目番号	02DT648
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 水 2
担当教員	木田 剛
授業概要	本年度のテーマは「接触場面と言語形成の理論」。フランス国内のフランス語やフランス語圏の言語状況を概観することで、マクロの視点からも言語問題を取り扱うことに慣れ親しみ、ミクロ分析に応用できるような、言語学者としての実践力の涵養を目指す。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。 フランス語で授業。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	本授業では言語学における「アイデンティティ」の問題を、歴史と現代に照らし合わせて考察することを主眼とする。フランス語やフランス語圏の現状や歴史、また他の諸言語を通して、社会と言語の関係や言語アイデンティティの問題を考察できる視点を身に付けることが目標である。本年度のテーマは「接触場面と言語形成の理論」。秋学期には、ブルデューとハーバーマスの言語観を概観し、各自の研究テーマとの関連を考察する。言語データの帰納的な分析だけでなく、理論から研究課題を見出すような演繹的アプローチを行い、マクロとミクロの両視点から言語を考察する方法論を涵養する。
授業計画	前半にハーバーマスとブルデューの言語観に触れた後、受講者各自の研究テーマとの関連を探る。 第 1 回講義の紹介、履修者の自己紹介、講義計画 第 2 回ハーバーマスの言語観 1(講義) 第 3 回ハーバーマスの言語観 2(講義) 第 4 回言語交換と言語価値論:ブルデューの言語観 1(講読) 第 5 回言語交換と言語価値論:ブルデューの言語観 2(講読) 第 6 回言語交換と言語価値論:ブルデューの言語観 3(講読) 第 7 回言語交換と言語価値論:ブルデューの言語観 4(講読) 第 8 回中間総括 第 9 回言語とアイデンティティ 1(発表) 第 10 回言語とアイデンティティ 2(発表) 第 11 回言語とアイデンティティ 3(発表) 第 12 回言語とアイデンティティ 4(発表) 第 13 回言語とアイデンティティ 5(発表) 第 14 回言語とアイデンティティ 6(発表) 第 15 回総まとめ
成績評価方法	出席:30%、発表 20%、発言:50%。出席日数が全体の 3 分の 2 を下回る受講者には単位を認めない。正当な理由がある場合のみ、レポート提出などの代替措置を協議する。授業中の発言での積極性を評価する。
教科書	仏語版は授業の前にコピーを配付する。(フランス語のわからない受講生には和訳あり) 1. Bourdieu, Pierre (1982). Ce que parler veut dire. L' é conomie des é changes linguistiques. Paris, Fayard.

参考書	1. ピエール・ブルデュー 『話すということ—言語的交換のエコノミー』 稲賀繁美訳、藤原書店、1983 年 2. Bourdieu, Pierre (2001). Langage et pouvoir symbolique. Paris, Seuil 3. Habermas, Jürgen (1987). Théorie de l'agir communicationnel. Tome 1 : Rationalité de l'action et rationalisation de la société ; Tome 2 : Pour une critique de la raison fonctionnaliste. Paris, Fayard (Theorie des kommunikativen Handelns, Suhrkamp, 1981 ; The Theory of Communicative Action, Beacon Press, 1984、『コミュニケーション的行為の理論 (上・中・下)』 河上倫逸・藤沢賢一郎・丸山 高司訳、未来社、1985-1987 年).
オフィスアワー	メールにて随時 (火曜日全日および水曜日 2 限を除く) 人社棟 B804 および共同利用棟 A302-2 kida.tsuyoshi.ga at u.tsukuba.ac.jp
TF・TA	
キーワード	言語, 社会, アイデンティティ, ハーバーマス, ブルデュー, 言語価値論, 言語交換, 談話分析, 言説

授業科目名	ドイツ語学研究 (4A)
科目番号	02DT707
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「形態論」を考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	基本文献を読みながら、現代ドイツ語の「語順」について考察する。
授業計画	第 1 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 2 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 3 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 4 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 5 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 6 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論における基本概念を修得する。 第 7 回これまでの議論をまとめ、問題点を整理する。 第 8 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 9 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 10 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 11 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 12 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 13 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 14 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。 第 15 回文献を読みながら、ドイツ語の統語論と情報構造の関係を考察する。
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備、ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	1. 第 1 回の授業において指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	かきまぜ, 情報構造

授業科目名	ドイツ語学研究 (4B)
科目番号	02DT708
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 4
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を読みながら、現代ドイツ語における「形態論」と「統語論」について考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	基本文献を読みながら、現代ドイツ語における「語順」について、特に英語と比較しながら考察する。
授業計画	第 1 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 2 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 3 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 4 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 5 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 6 回文献を読みながら、ドイツ語の形態論と語順の関係を考察する。 第 7 回これまでの議論をまとめ、英語との比較を行う際の問題点を整理する。 第 8 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 9 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 10 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 11 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 12 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 13 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 14 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。 第 15 回文献を読みながら、ドイツ語と英語における語順と情報構造について議論する。
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備、ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	かきまぜ, 情報構造, 焦点化

授業科目名	ドイツ語意味論 (4A)
科目番号	02DT727
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	対照言語学的観点からドイツ語と日本語の語彙をさまざまな角度から比較する。あわせてドイツ語文法についても知識を深める。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ドイツ語意味論についての基本的な知識を習得し、併せて原著論文のドイツ語を精読する能力を向上させることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度とレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	意味論, 語彙意味論, 意味対照研究, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語意味論 (4B)
科目番号	02DT728
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 2
担当教員	伊藤 眞
授業概要	対照言語学的観点からドイツ語と日本語の語彙をさまざまな角度から比較し、その共通点ならびに相違点を探る。あわせて文献精読能力の向上を図る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	ドイツ語意味論についての基本的な知識を習得し、併せて原著論文のドイツ語を精読する能力を向上させることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度とレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	意味論, 語彙意味論, 意味対照研究, ドイツ語文法

授業科目名	ドイツ語文法論 (4A)
科目番号	02DT737
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	英語や日本語と比較しながら, 現代ドイツ語の文法的特徴を考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	関連文献を読みながら, 現代ドイツ語におけるいくつかの文法的特性を議論する。
授業計画	第 1 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (1)。 第 2 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (2)。 第 3 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (3)。 第 4 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (4)。 第 5 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (5)。 第 6 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (6)。 第 7 回現代ドイツ語における「語順」について議論する (7)。 第 8 回現代ドイツ語における「分離動詞」について議論する (1)。 第 9 回現代ドイツ語における「分離動詞」について議論する (2)。 第 10 回現代ドイツ語における「分離動詞」について議論する (3)。 第 11 回現代ドイツ語における「分離動詞」について議論する (4)。 第 12 回現代ドイツ語における「分離動詞」について議論する (5)。 第 13 回現代ドイツ語における「与格」について議論する (1)。 第 14 回現代ドイツ語における「与格」について議論する (2)。 第 15 回現代ドイツ語における「与格」について議論する (3)。
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	基本語順, かきまぜ, 情報構造, 分離動詞=句動詞, 与格

授業科目名	ドイツ語文法論 (4B)
科目番号	02DT738
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 金 3
担当教員	大矢 俊明
授業概要	関連文献を精読しながら, 現代ドイツ語におけるいくつかの構文の特性を考察する。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標および テーマ	関連文献を読みながら, 現代ドイツ語におけるいくつかの文法的特性を議論する。
授業計画	第 1 回現代ドイツ語における「(低い) 与格」について議論する (1)。 第 2 回現代ドイツ語における「(低い) 与格」について議論する (2)。 第 3 回現代ドイツ語における「(低い) 与格」について議論する (3)。 第 4 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (1)。 第 5 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (2)。 第 6 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (3)。 第 7 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (4)。 第 8 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (5)。 第 9 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (6)。 第 10 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (7)。 第 11 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (8)。 第 12 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (9)。 第 13 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (10)。 第 14 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (11)。 第 15 回現代ドイツ語における(広義の)「態」について議論する (12)。
成績評価方法	授業で講読する文献に対する準備, ならびに学期毎に行ってもらおうプレゼンテーションにより評価する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	
オフィスアワー	
TF・TA	
キーワード	与格, 態, 再帰

授業科目名	ドイツ語史研究 (4A)
科目番号	02DT747
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	春 ABC 木 3
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語で書かれた専門文献を精読しながら、文献精読能力の向上を図る。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識や文法的な知識を習得する。ドイツ語文献精読能力をつけることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, ドイツ語文法, 歴史言語学, ゲルマン語学

授業科目名	ドイツ語史研究 (4B)
科目番号	02DT748
単位数	1.5 単位
標準履修年次	1 - 5 年次
時間割	秋 ABC 木 3
担当教員	伊藤 眞
授業概要	ドイツ語で書かれた専門文献を精読する。教壇に立つことを想定した高度な文法知識の習得にも力を入れる。
備考	2014 年度より 5 年おき開講。
授業形態	講義
授業の到達目標およびテーマ	ドイツ語史に関する文献を精読し、基本的な知識や文法的な知識を習得する。ドイツ語文献精読能力をつけることができる。学生に課題発表を課す予定。
授業計画	第 1 回原著文献の精読 第 2 回原著文献の精読 第 3 回原著文献の精読 第 4 回原著文献の精読 第 5 回原著文献の精読 第 6 回原著文献の精読 第 7 回これまでのまとめ 第 8 回原著文献の精読 第 9 回原著文献の精読 第 10 回原著文献の精読 第 11 回原著文献の精読 第 12 回原著文献の精読 第 13 回原著文献の精読 第 14 回原著文献の精読 第 15 回授業のまとめ
成績評価方法	積極的な授業への参加度やレポートなどに基づき総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	
オフィスアワー	事前に予約をとること。
TF・TA	
キーワード	ドイツ語史, ドイツ語文法, 歴史言語学, ゲルマン語学